# 第４期
# 高砂市
# 教育振興
# 基本計画

2025 → 2029

令和７（2025）年２月

高砂市教育委員会

# はじめに

このたび、令和7（2025）年度から令和11（2029）年度までの5年間の高砂市の教育の方向性を示す「第4期高砂市教育振興基本計画」を策定いたしました。

第3期高砂市教育振興基本計画の実施期間中は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、学校や社会教育施設における多くの事業や活動が制約を余儀なくされました。

しかし、そのような中でも、学校においては、「学びを止めない」という思いを大切に、ICT 機器を活用した新たな学びの実践を重ね、先進的な取組を展開してきました。また、社会教育施設においては、感染症対策を講じ、様々な工夫により、市民の皆様の学習活動を支援する取組を進めてきたところです。

ますます変化が激しく、予測困難な時代において、積極的に将来を切り拓きつつ生き抜く力を育む教育、多様な人々がともに生きる持続可能な社会の実現に向けた教育、だれもが学び続けることのよさを実感できる教育が求められています。

そのような教育の積み重ねにより、大人もこどもも、学ぶことに楽しみや喜びを感じ、自分の未来の学び、他者の学び、地域の学びにつながり広がっていき、個人と社会のウェルビーイングが実現していくと考えます。

そこで、本計画では、「思いやりとたくましさをもち、ふるさと高砂の今と未来を創る人を育む」の基本理念のもと、一人ひとりが主体的に学び、未来を切り拓く力を育む「学校教育の推進」、多様性を包み込み、だれもが安全・安心と幸せを感じる「教育環境の創造」、そして、生涯にわたって学び、学びをとおしてつながる「生涯学習の充実」の3つを基本目標に掲げました。

本計画策定に向けた検討の過程では、3つの基本目標達成に向けて、計画を体系化・重点化・焦点化すること、重点化した取組を継続的に検証して改善を重ねながら施策を展開することを大切にして、計画を取りまとめてまいりました。

また、計画策定に当たり、関係する皆様のご意見を大切にしたいという願いから、児童生徒、保護者の皆様、教職員、学校運営協議会委員を対象とした事前アンケートを行いました。

さらに、パブリックコメント実施に当たっては、小・中学生用のパブリックコメント用資料を作成し、こどもたちからの意見募集を行いました。事前アンケートと小・中学生からの意見募集の取組は、高砂市教育振興基本計画策定事業では初めての試みとなります。いただいた皆様からの貴重なご意見を大切にし、しっかりと受け止めて、これからの施策展開に生かしてまいります。

アンケート、パブリックコメントにご協力くださいました皆様、そして、本計画策定検討委員会において熱心にご協議くださいました委員の皆様に心よりお礼申し上げます。

本計画に基づく取組を着実に実現するためには、学校・家庭・地域・企業等の連携が不可欠です。引き続き、皆様の高砂市の教育へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和7（2025）年2月

高砂市教育委員会教育長　玉野 有彦

# ≪目次≫


第1章 計画策定の趣旨及び位置づけ ..... 1
　1　計画策定の趣旨 ..... 1
　2　計画の位置づけ ..... 1
　3　教育大綱について ..... 2
　4　計画の期間 ..... 2
　5　持続可能な開発目標（SDGs）とのかかわり ..... 3
第2章 高砂市における教育の取組状況と第4期計画に向けた方向性 ..... 4
第3章 高砂市の目指す教育と方向性 ..... 10
　1 基本理念 ..... 10
　2 目指す人間像 ..... 10
　3 基本目標 ..... 11
　4 施策体系 ..... 12
第4章 第4期計画の施策展開 ..... 14
　1　施策の基本的方向性 ..... 14
　2　本計画と持続可能な開発目標（SDGs） ..... 32
第5章 計画の着実な推進 ..... 33
　1　推進体制 ..... 33
　2　計画の進行管理 ..... 33
　3　達成度を測る指標（KPI） ..... 33
資料編 ..... 35
　1 高砂市教育振興基本計画策定経過 ..... 35
　2 パブリックコメントの実施 ..... 36
　3 高砂市教育振興基本計画策定検討委員会委員名簿 ..... 41
　4 アンケート調査結果概要（令和6（2024）年7月実施） ..... 42

# 第1章 計画策定の趣旨及び位置づけ

## 1　計画策定の趣旨

高砂市では、令和２（2020）年２月に「第３期高砂市教育振興基本計画（令和２（2020）～６（2024）年度）」（以下「第３期計画」という。）を策定しました。第３期計画期間においては、新型コロナウイルス感染症の拡大という予測困難な事態が生じ、大人もこども も、未来を切り拓いて生き抜く力がより一層求められることとなりました。そのような中、高砂市においては、地域・家庭・学校が力を合わせ、様々な手法を模索し、議論を重ねながら、こども同士、教職員とこども、大人とこどもが知恵を出し合うことの大切さ、また、かかわり合いながら学ぶことの素晴らしさを実感しながら乗り越えてきました。

情報化の急速な進展、加速する少子高齢化をはじめ、社会状況の変化は、ますます大きくなっており、現状から課題を分析し、課題解決に向けて粘り強く取組み、力強く生き抜く力の育成のための「学びづくり」が求められています。

また、多様性を認め合い、全ての人の幸せを考え、多様な人々とともに協働しながら新たな価値を創造していく力が求められます。さらに、こどもが抱える困難も多様化・複雑化しており、一人ひとりの多様な学びを保障する「環境づくり」も重要です。

加えて、長寿命化により人生 100 年時代と言われるようになり、大人はこどもから学び、こどもは大人から学ぶ風土を醸成し、長い人生において、豊かに生きるために学び続けることのよさを実感できる学びの循環を形成する「学びの輪づくり」も大切です。

こうした状況の中、国においては「第４期教育振興基本計画（令和５（2023）～９（2027）年度）」、県においては「第４期ひょうご教育創造プラン（令和６（2024）～10（2028）年度）」の策定により、時代に対応した教育の方向性を打ち出しています。

高砂市では、第３期計画が令和６（2024）年度末をもって終了することから、５年間の基本的な目標と方針、その実現に向けて重点的に取組む方向性について、高砂市の現状と課題、社会情勢や国・県の方針などを踏まえて「第４期高砂市教育振興基本計画」を策定・推進します。

## 2　計画の位置づけ

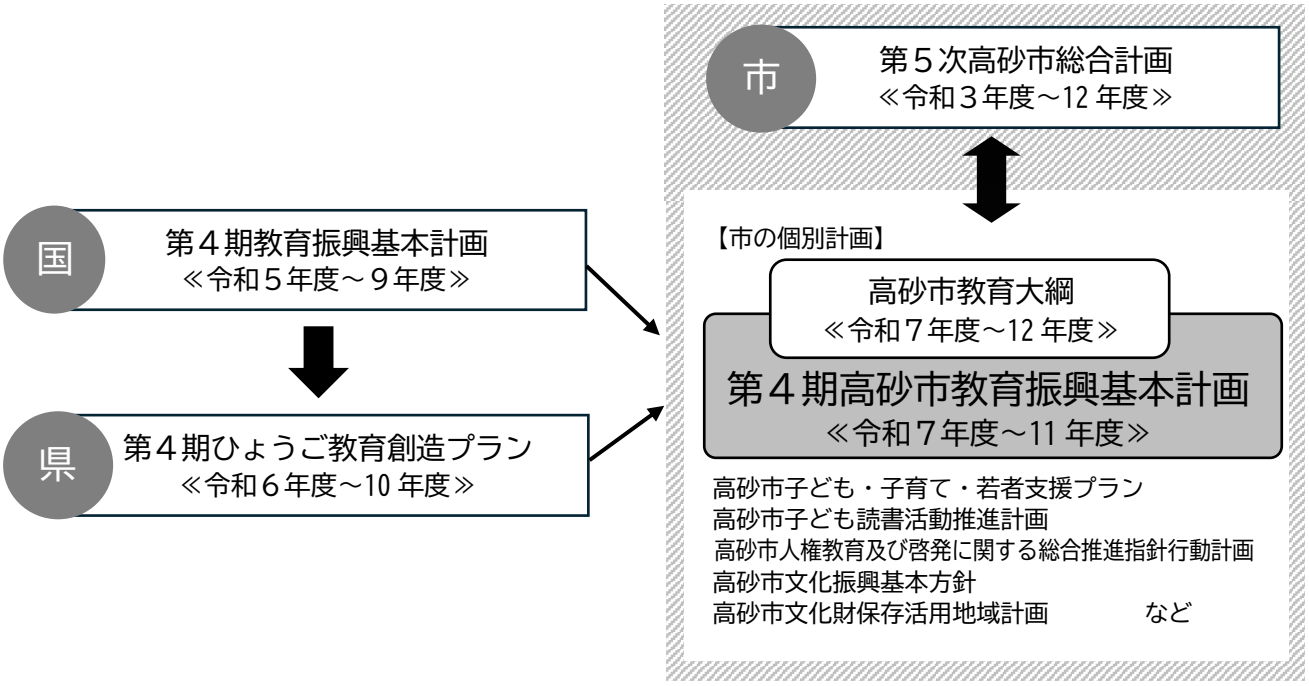
本計画は、教育基本法第 17 条の規定に基づいて策定する高砂市における教育振興のための施策に関する基本的な計画です。また、市の最上位計画である「第５次高砂市総合計画（令和３（2021）～12（2030）年度）」に基づく教育施策を推進するための具体的な計画であり、「高砂市子ども・子育て・若者支援プラン」「高砂市子ども読書活動推進計画」「高砂市人権教育及び啓発に関する総合推進指針行動計画」「高砂市文化振興基本方針」「高砂市文化財保存活用地域計画（令和６（2024）年度策定）などの関連する指針・個別計画と整合を図り策定しています。

## 3　教育大綱について

平成 27（2015）年４月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、地方公共団体の長は、その地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めることとされました。

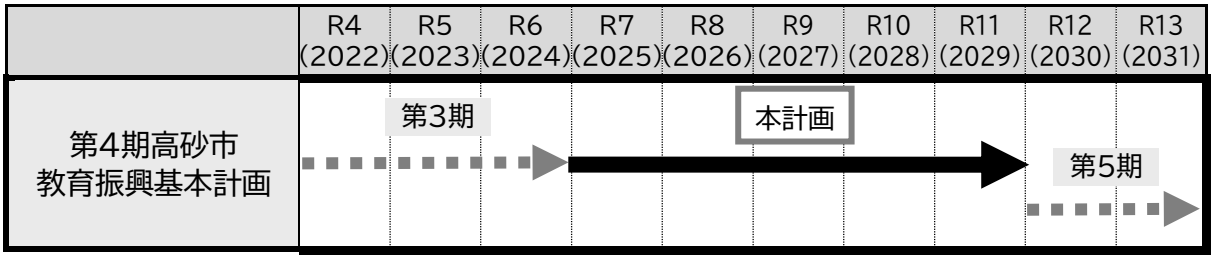
高砂市では、「高砂市教育大綱」と、「高砂市教育振興基本計画」の基本目標、基本的な方針との関係やその内容については、総合教育会議などにおいて市長と教育委員会が協議を行った上で策定しています。

■教育振興基本計画の位置づけ




## 4　計画の期間

本計画の期間は、令和７（2025）年度から 11（2029）年度の５年間とします。



## 5　持続可能な開発目標(SDGs)とのかかわり

平成 27（2015）年に国連サミットで、持続可能な社会に向けた 17 の国際目標（ゴール）である SDGs（Sustainable Development Goals）が採択され、様々な場面で持続可能な社会を目指す SDGs の視点を意識した取組が進められています。児童生徒は、各教科や総合的な学習の時間において SDGs の考えに触れています。本計画においても、「4　質の高い教育をみんなに」はもとより、様々な目標の達成に貢献することを目指し、SDGs を推進していきます。　　（P32「第4章　2　本計画と持続可能な開発目標(SDGs)」参照）

【高砂中学校】
向島公園内でのあおさ回収の
清掃活動の様子

【米田西小学校】
食育の様子(第1学年)

【伊保南小学校】
伊保漁港での環境体験学習(第3学年)

# 第2章 高砂市における教育の取組状況と第4期計画に向けた方向性

高砂市では、第3期計画（令和2（2020）～6（2024）年度）において、3つの重点テーマと 10 の基本施策を設定し、ふるさと高砂を愛し、思いやりとたくましさに満ちあふれた人づくりを目指してきました。第3期計画の主な取組状況と第4期計画に向けた方向性は次のとおりです。

## 重点テーマ1　自立的に自己の未来を切り拓く力を育てる学校教育の推進

### 基本施策1 確かな学力の定着と活用する力の育成

⑴ 少人数授業や兵庫型教科担任制導入により、教職員の専門性を生かした児童生徒の実態に応じた指導に取組むことができた。また、授業研究会や研修会の実施により、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業力向上を図っている。

**⇒第４期に向けた方向性**

「個別最適な学び」、「協働的な学び」及び「探究的な学び」について、調査・研究を行い、学校において、児童生徒が主役となる授業づくりに取組む。

⑵ 教職員が ICT を活用して、効果的に児童生徒の意見などを提示したり、互いの考えを交換して話し合いをしたりすることができるようになっており、デジタル教科書や授業支援ソフトなども活用し、情報教育を推進している。また、令和2（2020）年度には、各学級1台の大型提示装置と実物投影機（書画カメラ）の設置ができ、「主体的・対話的で深い学び」に寄与している。

**⇒第４期に向けた方向性**

今後も、教職員への支援、学習効果の測定、情報モラル教育の強化などを通じて、ICT 教育をさらに推進し、質の高い教育環境を充実させていく。また、ICT を使用した授業の研究を継続していく。

⑶ 令和4（2022）年度から、小・中学校に学校司書を配置し、読書活動の充実を図っている。

**⇒第４期に向けた方向性**

学校図書館の環境整備や学校司書の活用を進め、読書活動のさらなる充実を図る。

⑷ 小・中一貫教育の推進に当たっては、幼児教育・小学校・中学校での学びと育ちの連続性を踏まえた学習指導及び生徒指導の実践に向けて、中学校ブロックごとの連携が強化され、共通理解を図りながら取組んでいる。

**⇒第４期に向けた方向性**

情報共有などを通じて、各中学校ブロックの課題や目指すこども像を明確にし、小・中一貫教育カリキュラムの研究を充実させる。

## 基本施策2　豊かな心と健やかな体を育む教育の充実

⑴ 「働く人に学ぶ」プログラムや「トライやる・ウィーク」などの体験活動を通じて、社会や職業についての理解を深め、兵庫版「キャリア・パスポート」を活用しながら、将来の夢や自分らしい生き方について考える学習の充実を図っている。

**⇒第４期に向けた方向性**

児童生徒が予測困難な社会に対応できるキャリア教育を充実させるため、見直しや検討を継続して行っていく。

⑵ 令和5（2023）年度から外国人児童生徒等サポート員を配置し、外国人児童生徒等の支援体制の充実に着手している。

**⇒第４期に向けた方向性**

兵庫県教育委員会や学校との連携を図るとともに、高砂市独自の外国人児童生徒等サポート員制度を継続し、外国人児童生徒等の日本語指導の充実と自尊感情の形成を促す。

⑶ 不登校対策協議会における教職員研修や情報交換の実施、不登校児童生徒支援員の全校配置や、校内サポートルームの整備を行った。また、学校外の学びの場として、教育支援センター（のびのび教室）の充実を図り、こどもたちの居場所づくりに取組んだ。

**⇒第４期に向けた方向性**

担任・不登校児童生徒支援員などの教職員と専門家であるスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが「チーム学校」として連携しながら相談や支援を行うことで、不登校の未然防止につなげていく。また、児童生徒に校内サポートルーム・のびのび教室・のびのび教室サテライトなどの多様な学びの場を提供することで、社会的自立の支援をしていく。

⑷ 民間スポーツクラブのインストラクターなどを講師として招き、体つくり運動や水泳などの学習に取組むことで、児童生徒が体を動かす楽しさを実感することができ、体力・運動能力の向上に効果が見られた。

**⇒第４期に向けた方向性**

体力・運動能力を向上させるための授業改善について継続的に検討していく。

⑸ 令和2（2020）年1月から中学校の学校給食を開始し、第3期計画期間中、安全で安定した学校給食を実施した。

**⇒第４期に向けた方向性**

引き続き、特別メニューの提供や食材の地産地消についての情報提供など、児童生徒の食への関心を高めるために、給食指導や家庭科の学習などの充実を図る。

⑹ いじめへの対応として、「悩み相談シート」などを活用し、潜在的ないじめの発見といじめの実態把握に努め、早期発見・早期対応に当たっている。また、「いじめ対応高砂市ネットワーク会議」では、学校・関係機関と連携し、いじめ防止対策などについて協議を行った。さらに、令和 6（2024）年度において「高砂市いじめ問題調査委員会条例」を定め、いじめに係る重大事態の発生時における調査を行うことができるように制度を整えた。

**⇒第４期に向けた方向性**

引き続き、「いじめ対応高砂市ネットワーク会議」でいじめ防止対策などについて協議するとともに、「悩み相談シート」の活用をはじめとした対応により、いじめの未然防止やいじめの実態把握に努める。また、様々な人権課題を踏まえ発達段階に応じた人権教育に取組んでいく。

## 基本施策3　児童生徒の特性に配慮した特別支援教育の充実

⑴ 高砂市特別支援教育専門家チームの相談員の学校への派遣や保護者への教育相談を通じて、一人ひとりのニーズに応じた適切な指導・支援につなげた。

**⇒第４期に向けた方向性**

今後も、教職員の指導力向上と切れ目のない支援体制の構築を充実させる。兵庫県教育委員会作成の教育・家庭・福祉の連携マニュアル（「トライアングル」プロジェクト）を参考に他部署と協議を重ね、教育と福祉の連携を充実させる。

⑵ 令和5（2023）年度から、医療的ケアを必要とする児童生徒が健康で安全に学校生活を送ることができるよう学校看護師の配置を実施している。また、障がい加配教員、介助員、スクールアシスタントの人員を増やし対応の充実を図っている。

**⇒第４期に向けた方向性**

今後も、引き続き適切な人員配置を行っていくよう努めていく。

⑶ 特別支援学校に在籍する児童生徒が居住地の小・中学校と交流及び共同学習ができる仕組みの構築を推進している。

**⇒第４期に向けた方向性**

引き続き、特別支援学校在籍の児童生徒が居住地の小・中学校と交流及び共同学習ができるよう努める。

## 基本施策4　幼児期の教育の充実

⑴ 「高砂市就学前教育・保育の計画」について、公立・私立こども園全体で共有し、ジョイントカリキュラムに基づく教育・保育内容の充実を図り、教育・保育の質の向上に努めた。

**⇒第４期に向けた方向性**

今後も、ジョイントカリキュラムなどの充実を図っていく。

⑵ 研修会の実施や幼児教育アドバイザーによる訪問指導を通じて、教職員の専門性の向上に取組んだ。

**⇒第４期に向けた方向性**

経験年数の少ない職員が多くなっているため、引き続き教職員の保育の知識や技術の向上を図っていく。

⑶ 各小学校区で「保育園・こども園・幼稚園・小学校連携会議」を行い、幼児や児童の実態の情報共有を図ったり、公開保育や授業公開を行ったりするなど、相互理解を深める取組を実施した。

**⇒第４期に向けた方向性**

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」「小・中一貫教育のねらい」を踏まえ、教育・保育活動のさらなる充実を図る。

## 重点テーマ2　学びと成長を支える学校・家庭・地域が連携・協力した教育の推進

### 基本施策1　地域の教育力の向上

⑴ 新型コロナウイルス感染症拡大予防のために各地区PTAや地域による、こどもを育む様々な教育支援活動を行う機会が減少した中、PTCA 活動の可能性を探り、活動を止めない工夫により、こどもたちの見守りや育みの活動をしている。

**⇒第４期に向けた方向性**

児童生徒が減少する中、地域とともにこどもたちの健全な育成のために PTCA 活動をどのように充実させていくかが課題であり、引き続き活動のあり方の研究を行っていく。

⑵ 学校評議員制度から学校運営協議会制度へと移行し、それぞれの地域、学校の実情に応じた「地域とともにある学校づくり」の取組の工夫を重ねている。

**⇒第４期に向けた方向性**

先進事例の研究や各協議会の支援を進め、学校運営協議会の取組を充実させる。

### 基本施策2　家庭の教育力の向上

⑴ 新型コロナウイルス感染症拡大予防による制限がある中、学校においては、保護者が個人懇談・相談できる機会を可能な限り設定するとともに、教育委員会においては、家庭学習の習慣化や生活習慣の定着の大切さについての啓発資料を作成・配布し、家庭の教育力向上に向けた啓発を行った。

**⇒第４期に向けた方向性**

保護者が家庭教育に関する相談や学習を行う機会を設定し、家庭の教育力向上のための支援を継続して行っていく。

⑵ オープンスクールでの道徳の授業の公開や、夏季休業期間や道徳推進月間での「親子道徳」の実施などにより、家庭とともに、こどもの豊かな心を育む活動に継続して取組んだ。

**⇒第４期に向けた方向性**

家庭や地域と連携・協働した体験活動を取り入れながら道徳教育の推進を図っていく。

## 基本施策3　教育環境の整備と保護者・地域から信頼される学校づくり

⑴ 教職員の個々のライフステージや専門分野に合わせた研修を計画的に実施することで、専門性と実践力の向上に取組んだ。

**⇒第４期に向けた方向性**

こどもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るための実践力向上に努める。

⑵ 教職員の心と体の健康を支えるため、健康診断、メンタルチェックの実施に加え、ICT の活用を充実させることで連絡業務や情報管理についての大幅な業務改善を行った。

**⇒第４期に向けた方向性**

今後も、ICT の活用や業務改善に努め、学校における働き方改革を継続する。

⑶ 学校安全計画、災害対応マニュアル、学校危機対応ハンドブックなどの見直しを行うとともに、作成した計画やマニュアルについて、実際の場面を想定した研修や訓練を行った。

**⇒第４期に向けた方向性**

危機管理意識を一層高めるため、防災・安全教育を充実させる。

⑷ 学校環境の整備・充実について、高砂市学校施設等個別施設計画に基づき、計画的に建物や設備の改修を進めた。

**⇒第４期に向けた方向性**

市内の教育施設は、耐用年数を超過した部位・設備が多く、劣化が進行しているため、安全性・機能性を確保するための改修に努める。今後の教育や児童生徒数の変化を見据えて、適正規模・適正配置や学校施設のあり方を検討していく。

## 重点テーマ3　豊かな学びを提供し未来につなぐ生涯教育の推進

### 基本施策1　生涯学習活動への支援

⑴ 教育センターや高齢者大学、地域交流センター（旧公民館）、図書館などの市公共施設を中心とした施設で、多種多様なジャンルや各世代向けの行事を実施し、活動の幅を広げた。また、高砂の歴史・文化を継承する場づくり、地域の歴史に関する講座の実施、伝統文化を学ぶ機会としての高砂学（講座編、活動編、謡曲編、こども寺子屋）、こどもを対象とした夏季休業期間の歴史教室の実施などを健康こども部と教育委員会において実施した。

**⇒第４期に向けた方向性**

地域交流センターや市公共施設などにおいて、引き続き、様々な生涯学習に関する行事やイベントを開催するとともに、地域の歴史や伝統文化を学ぶ機会を増やしていく。

⑵ 図書館の指定管理事業者と協力し、名誉館長講座と題し、講座やゼミを行いながら、人材の発掘、育成、活躍の場の提供などを行っている。また、図書館と甲南女子大学が連携した取組が発展し、令和6（2024）年2月には甲南女子大学文学部と高砂市教育委員会において生涯学習の視点に立った人材育成を目的とした協定を締結した。

**⇒第４期に向けた方向性**

引き続き、人材育成の取組を進めていく。

### 基本施策2　芸術・文化の振興と支援、文化財の保存・活用・継承

⑴ 地域での文化活動への支援として文化連盟加盟団体などの実施する事業を支援するとともに、文化活動を担う人材の育成に努めた。

**⇒第４期に向けた方向性**

引き続き、団体が実施する事業を支援するとともに、人材育成に努めていく。

⑵ 文化財の保存・活用に当たって取組んでいく目標や具体的な事業内容を示した「高砂市文化財保存活用地域計画」の策定を行った。

**⇒第４期に向けた方向性**

計画的かつ確実な文化財の保存活用について、計画に沿い継続して取組んでいく。

### 基本施策3　生涯にわたるスポーツ・レクリエーション活動への支援

⑴ 「高砂市スポーツ推進計画」に基づき、スポーツに関する施策の総合的かつ効果的な推進に取組むとともに、スポーツ推進会議からの意見聴取による高砂市のスポーツのあり方の検討や高砂市スポーツ推進計画に基づくアクションプランの進捗管理などを行った。

**⇒第４期に向けた方向性**

引き続き、「すべての市民が生涯にわたってスポーツを楽しめるまち　高砂」の実現に向け、スポーツのあり方の検討を進めていく。

# 第3章 高砂市の目指す教育と方向性

## 1 基本理念

**思いやりとたくましさをもち、**
**ふるさと高砂の今と未来を創る人を育む**

変化が激しく、先を見通すことが難しいこれからの時代において、大人もこどもも、だれもが自分らしさを大切に思い、多様な文化や考え方を受け止め、尊重し、全ての人の幸せを考えながら、持続可能な社会を創っていくことが求められています。

そのためには、一人ひとりが身体的・精神的・社会的によい状態にあること、「ウェルビーイング」の向上が不可欠であり、「満足感・充実感の実感」を継続できることで、地域や社会も豊かで持続可能なものになると考えます。

未来を担うこどもたちのみならず、大人もこどもも全ての人が、今、そして未来に向かって、学ぶことに楽しみや喜びを感じ、自分の学びが未来の自分のさらなる充実感や、他者や地域の学びにつながっていく、そして、個人と社会のウェルビーイングが実現する教育を目指します。

全ての人が自他のいのちと人権を大切にする心と自分の人生を切り拓く力をもち、多様な仲間や人々とつながりながら、粘り強く新たな価値を生み出し、ふるさと高砂の発展に貢献できる人になってほしいという願いをこめて、基本理念を「思いやりとたくましさをもち、ふるさと高砂の今と未来を創る人を育む」とします。

## 2 目指す人間像

**目指す人間像①**
**自然と伝統・文化を愛し、互いに支え合い、よりよい社会を創ろうとする人**

少子高齢化やグローバル化の進展、雇用環境の変化、家族のあり方の変化など、社会情勢がめまぐるしく変化する予測困難な時代の中で、多様な価値観を理解し、主体的に学び、探究しながら、他者と協働して社会を生き抜く力を高めていくことが大切です。

自分自身のみならず、家族や地域の人々のウェルビーイングの実現につながるよう、自然と伝統・文化を愛し、互いを認め合い、支え合い、よりよい社会を創ろうとする持続可能な社会の創り手の育成を目指します。

**目指す人間像②**
**知・徳・体の調和がとれ、自立して、生涯にわたって自らの夢や志の実現に努力する人**

人生 100 年時代では、職業に直結した学びだけではなく、ライフステージに応じて生じる様々な希望や願いの中で、生涯にわたって学び続ける「人生を豊かにする学び」が大切です。

一人ひとりが、それぞれの夢や目標をあきらめることなく、知・徳・体の調和がとれ、自立して、生涯にわたって自らの夢や志の実現に努力する豊かな人生の創り手の育成を目指します。

## 3 基本目標

### 基本目標1　一人ひとりが主体的に学び、未来を切り拓く力を育む学校教育の推進

これからの社会を生き抜く力の基礎となる、確かな学力、豊かな心、健やかな体をバランスよく育成し、一人ひとりが自分の可能性に挑戦し続ける力を育みます。その上で、様々な体験やデジタル技術などのテクノロジーも活用した効果的な学びを通じ、これからの社会に主体的にかかわる力を育成します。

また、幼児教育から小・中学校にわたり、学びと育ちの連続性を踏まえた教育を推進します。

一人ひとりが学ぶことの楽しさや喜びを感じながら、粘り強く学びを深めることを積み重ね、自分らしさや自分のよさに気づき、大切にし、明るい未来を切り拓く力を身に付けることを目指します。

### 基本目標2　多様性を包み込み、だれもが安全･安心と幸せを感じる教育環境の創造

一人ひとりのこどもが自分に適した学びに出会い、自己実現に向けてあきらめずに取組むことができる、きめ細かな教育・支援の推進により、こども一人ひとりのウェルビーイング向上を目指します。

また、教職員の、こどもと向き合う時間と質が高まることにより、健康でやりがいを感じながら働くことができるよう、教職員のウェルビーイング向上を目指します。

さらに、ふるさと高砂の未来を見据え、これからの時代に合わせた学校施設のあり方の検討や、安全・安心な教育環境の確保など、ふるさと高砂のウェルビーイング向上を目指します。

基本目標２の「環境」が、基本目標１の「学び」と基本目標３の「地域全体での学び」をつなぐ役割を担い、学びの幅を広げ、学びのとき（時間）を広げ、学びの質を深めていきます。

### 基本目標3　生涯にわたって学び、学びをとおしてつながる生涯学習の充実

地域の中で、こどもは大人から学び、大人はこどもから学び、学びを生かして地域全体がつながり、広がっていく学びの輪づくりは、ふるさと高砂のウェルビーイング向上につながります。

また、人生 100 年時代と言われるようになり、自分の願う未来のために学び直す「人生を豊かにする学び」が注目されています。

そのため、家庭や地域を基盤とし、高砂市の強みでもある産業、豊かな自然、文化を大切にして、学びの機会を広げ、ふるさと高砂をフィールドとして、学び続ける力を高めることを目指します。

## 4 施策体系

第4期高砂市教育振興基本計画（令和7（2025）～11（2029）年度）
ふるさと・高砂の未来に向けた取組

**基本理念**

**思いやりとたくましさをもち、ふるさと高砂の今と未来を創る人を育む**

**目指す人間像**

**◎自然と伝統・文化を愛し、互いに支え合い、よりよい社会を創ろうとする人**
**◎知・徳・体の調和がとれ、自立して、生涯にわたって自らの夢や志の実現に努力する人**

| 基本目標 | 基本的な方針 |
|---|---|
| **学校教育**<br>1 一人ひとりが主体的に学び、未来を切り拓く力を育む学校教育の推進 | 1－1　確かな学力の育成 |
| | 1－2　豊かな心と健やかな体の育成 |
| | 1－3　学びと育ちの連続性を踏まえた教育の推進 |
| **教育環境**<br>2 多様性を包み込み、だれもが安全・安心と幸せを感じる教育環境の創造 | 2－1　一人ひとりに応じたきめ細かな教育の推進 |
| | 2－2　教職員がこどもと向き合うための環境の充実 |
| | 2－3　未来を見据えた学びの場としての環境の充実 |
| **生涯学習**<br>3 生涯にわたって学び、学びをとおしてつながる生涯学習の充実 | 3－1　大人からの学びとこどもからの学びの循環 |
| | 3－2　地域をベースとした学びの充実 |
| | 3－3　人生を豊かにする生涯学習の推進 |

## 基本理念を実現するための高砂市の目指す教育の姿

**予測困難な将来を切り拓きつつ生き抜く力を育む教育**

現状から課題を分析し、他者と連携・協働しながら粘り強く取組み、新たな価値を創造していく学びを深めます。

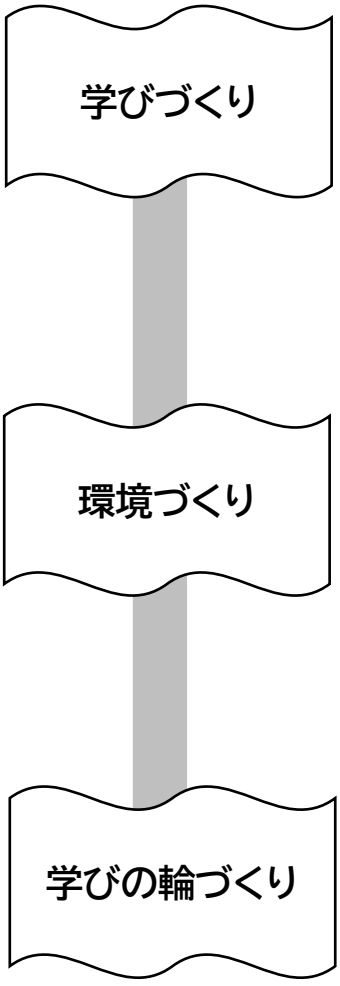
**多様な人々がともに生きる社会の実現に向けた教育**

多様性を受け止め、全ての人の幸せを考え、一人ひとりを大切につないでいくことができる教育と教育環境を創造します。

**だれもが学び続けることのよさを実感できる教育**

学校・家庭・地域が連携・協働して、大人はこどもから学び、こどもは大人から学び続けることができる生涯の学びの機会を広げます。

| 5年間の施策展開の中心となる方向性（主要な取組） | |
|---|---|
| 1－1－1 | 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 |
| 1－1－2 | 体験活動を大切にした探究的な学びの推進 |
| 1－1－3 | 基礎・基本の定着と粘り強く取組む力の育成 |
| 1－2－1 | 互いを認め合う心を育む道徳教育の充実 |
| 1－2－2 | 人権感覚の育成といじめに向き合う取組の充実 |
| 1－2－3 | 学校給食・食育、学校体育の充実 |
| 1－3－1 | 小・中一貫教育の発展 |
| 1－3－2 | 幼児教育の学びの充実と連携 |
| 2－1－1 | 特別支援教育の充実 |
| 2－1－2 | 多様なニーズに応じた教育の推進 |
| 2－1－3 | 不登校児童生徒等への支援の充実 |
| 2－2－1 | 指導力等の向上に向けた教職員研修の充実 |
| 2－2－2 | 教職員が健康で働きがいのある環境の整備 |
| 2－3－1 | 未来を見据えた学校施設等のあり方の検討 |
| 2－3－2 | 教育 DX の推進に向けた学校環境の整備 |
| 2－3－3 | 学校施設等の整備と学校安全の推進 |
| 3－1－1 | 地域とともにある学校づくりの充実 |
| 3－1－2 | 家庭・地域の教育力の向上と活用 |
| 3－1－3 | 地域人材と協働した部活動の地域展開の推進 |
| 3－2－1 | 地域の産業・文化等を大切にした学びの展開 |
| 3－2－2 | 居場所づくりに向けた地域開放のあり方の検討 |
| 3－3－1 | 幅広い世代にあった生涯学習の機会の充実 |
| 3－3－2 | 文化財に学ぶ機会の充実と文化財の保存・活用 |
| 3－3－3 | 生涯を通じたスポーツの振興 |



# 第4章 第4期計画の施策展開

## 1　施策の基本的方向性

### 基本的な方針　1-1　確かな学力の育成

**POWER UP!**

**≪力を入れる POINT≫**

■主体的・対話的で深い学びの実現のために、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るとともに、ICT を効果的に活用します。

■「産学官民」と連携した「探究的な学び」や、「体験教育・キャリア教育」を核とした学びを推進していきます。

■全ての学習の基盤であり、主体的・対話的で深い学びを支えるコミュニケーション能力の向上を図り、一人ひとりの学びに対する継続的な指導と評価を重ね、着実な学力の向上に取組みます。

### アンケートや計画策定検討委員会の声などからみた現状（◎：アンケート、◇：委員意見）

1-1-1
1-1-2
1-1-3

◎「授業が楽しいと感じるときはどんなときか」について、小学校5年生の 50%、中学校2年生の 55%が「友だちと話し合っているとき」と回答し、小学校5年生の47%、中学校2年生の 43%が「分からないことが分かったとき」と回答している。また、「先生の説明を聞いているとき」と回答したのは、小学校5年生が 11%、中学校2年生が 5%にとどまっており、友だちとともに、学びを深めていく探究的なプロセスに対してよさを感じていることから、「協働的で探究的な学び」を大切にしていく必要がある。

### ５年間の施策展開の中心となる方向性（主要な取組）

#### 1-1-1 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

➢ ***個別最適な学びと協働的な学びを支える学習形態の工夫と選択***

主体的・対話的で深い学びを実現させるためには、授業の中で「個別最適な学び」と「協働的な学び」をバランスよく構成することが求められます。そこで、教員が学習形態の工夫や選択を、適切かつ柔軟に行うとともに、児童生徒一人ひとりが学習活動や学習課題を選択する機会を設定するなどして、よりよい学びを実現し、基礎的知識・技能の習得や学習満足度の向上を図ります。

➢ ***ICT を効果的に活用した学びの充実***

一人ひとりに応じた学習活動、多様な考えを学び合う協働的な学習など、様々な学習場面において、ICT を効果的に活用することにより、主体的・対話的で深い学びにつなげていきます。

そのために、ICT 支援員の配置や、児童生徒が確実に活用できる環境整備を行うとともに、ICT を活用した授業実践の積み重ねと共有を行い、より質の高い学びの展開を目指します。

⇒関連する取組2−3−2

## 1-1-2 体験活動を大切にした探究的な学びの推進

- ***「産学官民」と連携した探究的な学びの充実***

  ふるさと・高砂の地域や社会の中から課題を見つけ、「産学官民（産業・教育機関・官公庁・地域など）」と連携した探究的な学びを通じて、「学び続ける力」「探究する力」「課題解決する力」を育成する高砂STEAM教育に取組みます。高砂市の強みである産業、ふるさと・高砂の豊かな自然や環境、文化など、様々なテーマについて学習が展開できるよう、「高砂 STEAM 教育ライブラリー」の充実を図っていきます。 こどもたちの学びの成果を発表する機会を充実させ、学ぶことの意義を実感できるように展開していきます。　⇒関連する取組3−2−1

- ***「体験教育・キャリア教育」を核とした学びの展開***

  小学校での「環境体験」「自然学校」、中学校の「トライやる・ウィーク」、さらには高砂 STEAM 教育での体験などを大切にし、体験活動を振り返り、自分自身のこととして深くとらえ価値付ける学びを展開することにより、課題対応能力や予測不可能な社会にも対応できる力などを養います。また、兵庫版「キャリア・パスポート」の活用などを通じて、将来への夢をもち、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を育むキャリア教育の充実を図ります。

## 1-1-3 基礎・基本の定着と粘り強く取組む力の育成

- ***多様な言語活動の展開によるコミュニケーション能力の向上***

  全ての学習の基盤となる言語能力を育成するために、また、主体的・対話的で深い学びを支えるコミュニケーション能力を育成するために、各教科の学習で「聞く」「話す」「読む」「書く」活動を充実させます。また、外国語（英語）科においては引き続き ALT を配置し、コミュニケーションを図ろうとする態度を育成します。

- ***「認め・励まし・価値付ける」継続的な指導と評価による学力の着実な向上***

  主体的に学び、未来を切り拓く力を育むために、一人ひとりの学びの姿を確実に見取り、「認め・励まし・価値付ける」継続的できめ細かな指導と評価を行うことで、児童生徒が次の学びに向かう意欲を高めるとともに、次の学習に粘り強く取組む力を育て、学力の着実な向上を目指します。

- ***読書活動を広げる学校図書館の活用***

  様々な学習において重要な役割を果たす学校図書館の「読書・学習・情報」センターとしての機能の充実を図るため、学校司書を計画的に配置します。また、各学校の生活時程に合わせた開館時間の工夫や調べ学習での活用など、本を手に取る機会を確保し、児童生徒の読書習慣の向上を目指します。

## １－１の達成度を測る指標（KPI）

| 指　標 | 現状<br>（令和6(2024)年度） | | 目標<br>（令和 11(2029)年度） |
|---|---|---|---|
| 話し合い活動で考えを深める・新たな気づきができていると回答した児童生徒の割合 | （小6）81.9%<br>（中3）82.3% | ⇒ | （小6）86.0%<br>（中3）86.0% |
| 総合的な学習の時間に、自分で課題を立てて情報を整理して発表するなどの学習活動に取組んでいると回答した児童生徒の割合 | （小6）77.9%<br>（中3）72.8% | ⇒ | （小6）81.0%<br>（中3）82.0% |

## 基本的な方針　1-2　豊かな心と健やかな体の育成

**POWER UP！**

**≪力を入れる POINT≫**

■全教育活動を通じて、規範意識、人間関係を築く力、自然を大切にする心などを養い、自他のいのちを大切にし、互いを認め合い、よりよい社会を創ろうとする人づくりの基盤としての道徳性を養う道徳教育を推進します。

■「いじめを未然に防ぐ・いじめを見逃さない・いじめから守り抜く」を徹底し、自他のいのちと人権を大切にする人権教育を推進します。

■安全・安心でおいしい給食を提供するとともに、食に関する指導を推進し、生涯にわたって健やかに過ごせる体の土台づくりに努めます。また、体育の授業や学校行事などを通じて運動への関心を高め、体力や運動能力の向上を図ります。

### アンケートや計画策定検討委員会の声などからみた現状（◎：アンケート、◇：委員意見）

1-2-1

◎「各教科や授業は好きか」の質問では、「特別の教科道徳」について、「好き」と回答した小学校5年生が 34%、中学校2年生が 23%にとどまっており、道徳科の授業の工夫を図ることが必要である。

◇検討委員会委員からも「学校に最も期待することとして『思いやりなど他者とのかかわりに関する心の育成』がある。みんなで協力して何かをつくりあげて交流を深めたり、他者の心の痛みがわかるような場面を大切にしたりする場を大切にしてほしい。」という意見があった。

### ５年間の施策展開の中心となる方向性（主要な取組）

#### 1-2-1 互いを認め合う心を育む道徳教育の充実

➢ ***「特別の教科　道徳」の授業の充実***

兵庫版道徳教育副読本などを活用した資料提示の工夫、道徳的価値の自覚ができるような発問の工夫、お互いの考えを聞き合う学習形態の工夫などにより、「考え、議論する道徳」の授業づくりを目指します。児童生徒が物事や生き方について多面的・多角的にとらえ、自分自身のこととして考え、他者や自分との対話のある学習を充実させ、人間としてよりよく生きていこうとする心を育成します。

➢ ***全教育活動を通じた道徳教育の推進***

自他のいのちを大切にし、お互いを認め合い、よりよい社会を創ろうとする人、また、自立して生涯にわたって夢や志の実現に努力する人を育成することを目指し、道徳教育の目標を明確にした全体計画を作成します。「特別の教科　道徳」を要として、全教育活動において、こどもたちの豊かな道徳性を養い、他者とともによりよく生きるための基盤となる力を伸長します。

## 1-2-2 人権感覚の育成といじめに向き合う取組の充実

➢ ***差別やいじめに関する正しい理解を深める人権教育の推進***

「高砂市人権教育基本方針」に基づき、人権教育年間指導計画を作成し、差別やいじめに関する正しい理解を醸成し、自分も他者も大切にする心の育成を、教育活動全体を通じて図ります。偏見や差別を許さず、多様性を尊重し、お互いに認め合う人権意識の育成に努めます。

➢ ***「いじめを未然に防ぐ・いじめを見逃さない・いじめから守り抜く」体制の強化***

児童生徒との個別面談やアンケートなどにより、いじめの未然防止や早期発見に努めます。「いじめ防止基本方針」に基づき、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門家や関係機関と連携して、いじめ問題への組織的な対応、早期解決に取組みます。また、一人ひとりの人権が尊重される集団づくりを大切にします。　⇒関連する取組2－1－3

※スクールカウンセラー・・・児童生徒の不安や悩みへの相談、保護者や教職員への助言・援助など、こどもの心の問題に関する様々な相談活動を行う

※スクールソーシャルワーカー・・・個々のこどもたちへの直接的な支援をするとともに、日常生活を営む上で生じる様々な問題について、学校、家庭、関係機関と連携しながら解決に向けて支援を行う

## 1-2-3 学校給食・食育、学校体育の充実

➢ ***学校給食の充実と食育の推進***

栄養バランスのとれた学校給食を提供し、児童生徒の健やかな体の育成を図るとともに、食物アレルギーへの対応や事故防止の徹底に努めます。

学校給食では、地域の産物を食材に取り入れたり、郷土食や行事食を充実させたりするなど、食を通じたふるさと・高砂の理解を深めます。また、家庭と連携を図り、各教科での指導等と関連させながら、栄養のバランスや規則正しい食生活、食品ロス削減など、生涯にわたる食の大切さを学ぶ機会を大切にして、食育を推進します。　⇒関連する取組3－1－2

➢ ***運動に親しむ習慣をつくる体育の授業の充実***

体育の授業や健康安全・体育的行事などの体育活動の充実を図るとともに、屋外での遊びの奨励などを通じて、児童生徒が運動の楽しさ、心地よさ、達成感を経験する機会を増やし、生涯にわたって運動に親しむことができる習慣をつくります。

また、専門性に優れた地域の指導者などを積極的にゲストティーチャーとして招聘したり、国が実施する「新体力テスト」などの結果を効果的に活用したりすることで、一人ひとりに応じた体力・運動能力の向上を図ります。

## １－２の達成度を測る指標（KPI）

| 指　標 | 現状<br>（令和6(2024)年度） | | 目標<br>（令和 11(2029)年度） |
|---|---|---|---|
| 人が困っているときは進んで助けていると思う児童生徒の割合 | (小6) 92.7%<br>(中3) 89.2% | ⇒ | (小6) 95.0%<br>(中3) 92.0% |
| 高砂市周辺で収穫された野菜等を学校給食で使用していることを知っていると回答した児童生徒の割合 | (小6) 87.0%<br>(中3) 68.3% | ⇒ | (小6) 90.0%<br>(中3) 90.0% |

## 基本的な方針　1－3　学びと育ちの連続性を踏まえた教育の推進

**POWER UP！**

**≪力を入れる POINT≫**

■義務教育9年間の「学び」と「育ち」の系統性・連続性を重視して、中学校ブロックの連携を図り、特色ある質の高い教育を行います。

■5歳児から小学校第1学年の架け橋期の「学び」と「育ち」の円滑な接続を大切にして、幼児期から義務教育期間の系統的で連続的な学びの実現を目指します。

### アンケートや計画策定検討委員会の声などからみた現状（◎：アンケート、◇：委員意見）

1-3-2

◎就学前児童保護者の「どのような教育や指導を学校に期待するか」について、「自主的に考えたり、努力したりしようとする心」、「思いやりなど他者とのかかわりに関する心」の順に多く、55%を超えており、心の成長を大切に考えている。

◎就学前児童保護者の「小学校進学に当たって心配なこと」では、友だち関係に関する不安、勉強に関する不安の順に高くなっており、幼児教育と小学校教育の「育ち」の面での円滑な接続を願っている。

◇◎就学前児童保護者の「普段絵本などを読ませたり、読み聞かせをしたりしている時間」について、週に1回以上行っている割合は 89%と、読書の習慣化ができており、よい習慣が継続できるようにすることの大切さについて意見があった。

【荒井幼稚園】
新聞紙を「ちぎる」「まるめる」などの遊びを通じて学ぶ様子

**幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿**
①健康な心と体②自立心③協同性④道徳性・規範意識の芽生え⑤社会生活との関わり⑥思考力の芽生え⑦自然との関わり・生命尊重⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚⑨言葉による伝え合い⑩豊かな感性と表現の 10 項目からなり、幼児期の終わりまでに内容ごとに育ってほしい資質・能力を示したもの

【北浜こども園】
小学校の生活科の学習につながる絵画活動の様子

## ５年間の施策展開の中心となる方向性（主要な取組）

### 1-3-1 小・中一貫教育の発展

- ***学びと育ちをつなげる学習指導と生徒指導の方向性の共有と実践***

小学校、中学校の独自性を大事にしながら、各中学校ブロックの現状と課題、保護者や地域の願いを踏まえて設定した「目指すこども像」に向けて、小学校と中学校の教職員が指導の方向性を共有し、発達段階に応じた学習指導と生徒指導を推進します。また、義務教育9年間の「学び」と「育ち」の系統性・連続性を重視した小・中一貫教育カリキュラムの研究に取組みます。中学校ブロック長会議の定期的な開催や中学校ブロック合同研修会の充実を図り、各中学校ブロックの特色ある質の高い9年間の教育を推進します。

- ***児童生徒の交流や合同活動の活発化***

小学校と中学校が連携した行事や合同活動、交流を行い、児童生徒間のコミュニケーションの機会を増やし、児童生徒の自己肯定感・自己有用感の向上、互いを認め合える豊かな心の育成を図ります。

### 1-3-2 幼児教育の学びの充実と連携

- ***こどもの発達段階を見通した幼児教育の充実***

小学校以降の学習の基盤となるとともに、生涯にわたる人格形成の基礎となる幼児教育について、健康こども部と連携し、遊びを通した体験を積み重ねて、友だちと積極的にかかわる子の育成を目指した学びの充実を図ります。0～5歳児の発達段階や就学後の学びを見据えた「高砂市就学前教育・保育の計画」に基づき、園全体で共通理解を深めながら、小学校への連続性を意識した実践の充実を図ります。

- ***学びと育ちをつなげる架け橋期のカリキュラムの研究***

各小学校区での「保育園・こども園・小学校連携会議」における情報の共有や、幼児教育アドバイザーによる連携強化に向けた研修の実施を通じて、幼児教育と小学校教育の相互理解を深めます。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を踏まえた幼児教育カリキュラムと、小学校入学期のスタートカリキュラムについて、架け橋期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、より質の高いカリキュラムについて研究します。

※スタートカリキュラム・・・小学校へ入学したこどもが、幼稚園・保育所・認定こども園などの遊びや生活を通した学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラム

## １－３の達成度を測る指標（KPI）

| 指　標 | 現状<br>（令和6（2024）年度） | | 目標<br>（令和 11（2029）年度） |
|---|---|---|---|
| 自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合 | （小6）82.8%<br>（中3）80.6% | ➡ | （小6）84.0%<br>（中3）83.0% |
| 授業がよく分かると回答した児童生徒の割合 | （小6）国語79.9%<br>算数79.0%<br>（中3）国語76.2%<br>数学69.4% | ➡ | （小6）国語86.0%<br>算数82.0%<br>（中3）国語82.0%<br>数学75.0% |

## 基本的な方針　2－1 一人ひとりに応じたきめ細かな教育の推進

**POWER UP！**

**≪力を入れる POINT≫**

■特別な支援や配慮を必要とする児童生徒が、「分かる」「できる」「楽しい」を実感できるよう、一人ひとりの個性や教育的ニーズに応じた学びを推進します。

■外国人児童生徒等の自尊感情の形成や、自己実現が図れるよう、外国人児童生徒等サポート員を中心とした日本語指導の充実を推進します。

■不登校の児童生徒が学びの機会を広げていくことができるよう、多様な学びのあり方の検討と確保を推進します。

### アンケートや計画策定検討委員会の声などからみた現状（◎：アンケート、◇：委員意見）

2-1-3

小・中学校における不登校児童生徒数（欠席 30 日以上）は、小学校では、令和元年度 25人であったが、令和5年度 123 人となっている。中学校では、令和元年度 126 人であったが、令和 5 年度 161 人であり、小・中学校ともに増加している。新型コロナウイルス感染症拡大の影響も一因と考えられるが、小学校での不登校児童の増加は 4.92 倍と大きくなっている。

◇不登校児童生徒が増えている現状の中で、不登校児童生徒の居場所づくりはもちろんのこと、校外の学びの場（のびのび教室など）で、一人ひとりの状況に合わせた心のエネルギーを蓄えていく機会や学びの機会の重要性について協議された。

### 5年間の施策展開の中心となる方向性（主要な取組）

#### 2-1-1 特別支援教育の充実

➢ ***一人ひとりの特性に応じた特別支援教育の充実***

特別な支援を必要とする児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じて、きめ細かな教育を安心して受けることができるように、また、自立と社会参加を果たせるように、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、適切な指導と切れ目のない支援に努めます。また、医療的ケアが必要な児童生徒への学校看護師の配置や、支援を必要とする児童生徒への支援員の適切な配置などにより、一人ひとりの状況に応じた多様で柔軟な支援の充実を図ります。

➢ ***交流及び共同学習の推進***

特別支援学級と通常の学級との交流及び共同学習を推進し、全ての児童生徒がともに学び、互いに認め合い、人間関係を広げていく機会を大切にします。また、特別支援学校の児童生徒との交流及び共同学習など、互いのよさや大切さを学び合う場の充実を図ります。

## 2-1-2 多様なニーズに応じた教育の推進

➢ ***だれもが充実した学びとなるための日本語指導の推進***

外国人児童生徒等の自尊感情の形成を促し、自己実現が図れるように支援するため、関係機関との連携を図るとともに、外国人児童生徒等サポート員制度を継続させ、外国人児童生徒等への日本語指導の充実、学習支援や学校生活への早期適応などに取組みます。

➢ ***ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくりの充実***

全ての児童生徒が「分かる」「できる」「楽しい」を実感できるよう、視覚的支援やスモールステップの手法、ICT の活用など、ユニバーサルデザインの視点を生かした指導や支援を充実させます。

※ユニバーサルデザイン･･･障がいの有無、年齢、性別、人種などにかかわらず、だれもが利用しやすいようあらかじめ都市や生活環境をデザインする考え方

## 2-1-3 不登校児童生徒等への支援の充実

➢ ***不登校児童生徒の多様な学びのあり方の充実***

全小・中学校に設置した校内サポートルームに不登校児童生徒支援員を配置するなど、児童生徒の多様な教育的ニーズに柔軟に対応し、一人ひとりの個性やよさを伸ばすことを重視します。また、校外の学びの場としての教育支援センター（のびのび教室）の機能の充実や、関係機関と連携を図り、多様な学びの場の確保に努めます。さらに、ICT の活用を推進し、一人ひとりに応じた学びの保障や、心や体調の変化の把握に努めます。

➢ ***切れ目なく、つなげていく相談・支援機能の充実***

「不登校ほほえみサポートプラン」に基づき、だれもが通いやすい魅力ある学校・学級づくりを進めるとともに、不登校対策マニュアルに基づいた組織的な初期対応を図ります。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの相談・支援機能の充実を図り、「チーム学校」として切れ目なく、個に応じたきめ細かな対応に努めます。　⇒関連する取組Ⅰ−2−2

※不登校児童生徒支援員･･･校内サポートルームにおいて不登校児童生徒に対して個に応じた学習などの支援を行う

※不登校ほほえみサポートプラン･･･学校・家庭・地域の関係機関がネットワークを構築して、不登校児童生徒一人ひとりにきめ細かく対応するための基本方針

## ２－１の達成度を測る指標（KPI）

| 指　標 | 現状<br>（令和6（2024）年度） | | 目標<br>（令和 11（2029）年度） |
|---|---|---|---|
| 困りごとや不安があるときに、先生（学校の大人）にいつでも相談できると感じている児童生徒の割合 | （小6）64.0%<br>（中3）61.4% | ⇒ | （小6）67.0%<br>（中3）67.0% |
| 学校に行くのは楽しいと思っている児童生徒の割合 | （小6）83.3%<br>（中3）85.1% | ⇒ | （小6）85.0%<br>（中3）88.0% |

## 基本的な方針　2－2 教職員がこどもと向き合うための環境の充実

**POWER UP！**

**≪力を入れる POINT≫**

■教職員のキャリアステージに応じた研修を計画的に行うとともに、授業力、学校組織力などの向上に向けた計画的な OJT を推進し、教職員の学びの機会を充実させ、質の高い教育の実現を推進します。

■「高砂市学校業務改善プラン」に基づき、業務改善や学校全体の働き方への意識改革に取組み、教職員がこどもと向き合う時間の確保と質が高まることにより、健康でやりがいを感じながら働くことができるよう、教職員のウェルビーイング向上を目指します。

### アンケートや計画策定検討委員会の声などからみた現状（◎：アンケート、◇：委員意見）

2-2-1

【松陽中学校】
校内研修の様子
研修テーマ「幸せに働ける組織づくり」

【市教育委員会】
市教育委員会実施の研修の様子
研修・ワークショップ「協働的な学びのあり方」

2-2-2

◎教職員の「勤務している学校の取組は児童生徒の学力向上につながっていると思うか」について、「つながっていると思う」「どちらかといえばつながっていると思う」が 94%であり、引き続き、さらなる教育活動の充実に向けて、個に応じた指導を実践する指導力、資質・能力の向上に向けた取組が重要である。

◎教職員の「仕事をする上で特に忙しさを感じるのはどのような業務か」について、「支援が必要な児童生徒・家庭への対応」が 52%、「学習指導や生徒指導以外での事務業務」が 50%、「行事の準備・運営」が 42%であり、教員業務を支援する人員体制の確保や、業務内容の見直しなどが必要である。

◇教員のメンタルヘルス不調が社会的な大きな課題となっており、カウンセリングを受けやすい環境を整えるなどメンタルヘルス対策が必要である。

## ５年間の施策展開の中心となる方向性（主要な取組）

### 2-2-1 指導力等の向上に向けた教職員研修の充実

➢ ***教職員のキャリアステージに応じた研修の充実***

児童生徒の学びを最大限に引き出し、一人ひとりの個性や可能性を伸ばすとともに、多様な教育課題に適切に対応できるよう、教職員の経験年数などを踏まえたキャリアステージに応じた研修を計画的に実施し、教職員の専門性や指導力の向上を図ります。

➢ ***魅力ある授業づくりに向けた教職員の学びの機会の充実***

魅力ある授業づくりに向けた各教科等研修の充実、「学び合いネットワーク（ティーチラボ）」などの教職員の自発的な研鑽の場の提供や、「高砂市教育ネットワーク」による積極的な授業実践動画の情報提供などを行い、教員の授業力向上を図ります。また、よりよい授業づくりに向けて、授業を互いに見合う授業研修や様々な教育課題についての校内研修会の実施などによるOJTの充実を図り、教員の授業力、指導力の向上や教職員間の連携強化を目指します。

※ティーチラボ･･･教員が授業力向上を目指し、自主的に指導法などを学ぶ講座
※高砂市教育ネットワーク…高砂市の教育の情報を発信するホームページ。各学校の取組や教育課題への取組状況、教職員への情報提供など様々なコンテンツで構成されている
※OJT･･･ On-the-Job Training のことで、職場（校内）での実務を通じて知識やスキルを習得させる育成手法。職場や通常の業務から離れて行う教育や研修を Off-the-Job Training（Off-JT）という

### 2-2-2 教職員が健康で働きがいのある環境の整備

➢ ***業務見直しや校務の ICT 化による働き方改革の推進***

「高砂市学校業務改善プラン」に基づき、校務支援システムや教職員グループウェアシステム、デジタル連絡ツールなどを活用したDX化の一層の推進や、教育課程の編成の工夫、会議のあり方など、一層の業務改善を図るとともに、引き続き教員業務を支援するスクールサポートスタッフを配置し、教職員の働き方改革を推進します。

➢ ***教職員のウェルビーイング向上に向けた学校全体の意識改革の推進***

こどもと向き合う時間の確保と質が高まることにより、教職員が健康でやりがいを感じながら働くことができるよう、校長のリーダーシップの下、学校全体の働き方に対する意識改革を図ります。教職員の多忙化解消に向けて、会議の効率化、業務の適正化、ICT を活用した勤務時間の可視化などに取組み、「定時退勤日」「ノー会議デー」「ノー部活デー」を確実に実施し、教職員のウェルビーイング向上を目指します。

## ２－２の達成度を測る指標（KPI）

| 指 標 | 現状<br>（令和6（2024）年度） | | 目標<br>（令和 11（2029）年度） |
|---|---|---|---|
| 先生は自分のよいところを認めてくれていると思う児童生徒の割合 | （小6）83.2%<br>（中3）87.4% | ⇒ | （小6）90.0%<br>（中3）90.0% |
| 教職員一人当たりの時間外勤務の月平均時間数 | （小学校）29.25時間※<br>（中学校）41.50時間※ | ⇒ | （小学校）25.0時間<br>（中学校）30.0時間 |

※令和5年調査実績より

## 基本的な方針　2－3 未来を見据えた学びの場としての環境の充実

**POWER UP！**

**≪力を入れる POINT≫**

■ふるさと・高砂の未来を見据え、学校を取り巻く教育環境に柔軟に対応しながら、こどもたちが夢や志をもち、よりよい社会を創るために必要な力を育むことができ、豊かな学びが広がっていく新しい学校づくりに着手します。

■GIGA スクール構想の加速化に向けて、「1人1台端末」などの ICT 環境について更新や整備を行い、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図ります。

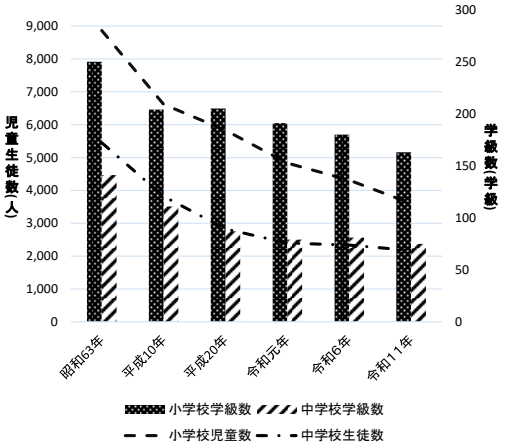
■安全・安心で、より快適な教育環境の実現に向けて、計画的な教育環境の整備を行うとともに、学びの充実に向けた教育環境の見直しと対策の検討など、学校に好循環を生み出すための検討を行います。

※GIGAスクール構想・・・多様なこどもたちをだれ一人取り残すことのなく、一人ひとりの個別最適化された学びの実現のため、令和元（2019）年 12 月に国が提唱した構想。1人1台学習用端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備する構想

### アンケートや計画策定検討委員会の声などからみた現状（◎：アンケート、◇：委員意見）

2-3-1

高砂市立小中学校の児童生徒数の推移と見通し




2-3-2

【荒井中学校】
「1 人 1 台端末」による学習

### ５年間の施策展開の中心となる方向性（主要な取組）

#### 2-3-1 未来を見据えた学校施設等のあり方の検討

➢ ***環境変化に柔軟に対応した新たな学校づくりに向けた調査・検証の実施***

未来を見据え、学校を取り巻く環境変化に柔軟に対応しながら、こどもたちが夢や志をもち、よりよい社会を創るために必要な力を育むことができる教育環境をつくることが必要です。

現在、小学校 10 校、中学校 6 校を設置していますが、人口減少に伴い、児童生徒数、学級数が減少し、各学校に配置される教職員も減少しています。また、昭和 40 年代より集中整備された学校施設は、今後本格的な更新時期を迎えます。そこで、豊かな学びが広がっていく新たな学校づくりに着手します。児童生徒、保護者、学校関係者、市民の方々の思いや願いを大切にしながら、新しい時代の学びの実現に向けて、学校施設、通学距離・時間など、新たな学校づくりに向けた様々な視点からの実態把握・調査・検証を実施します。

➢ ***市民と行政の協働による「高砂市新たな学校づくり推進計画」の策定***

新たな学校づくりに向けた調査・検証に当たっては、「高砂市新たな学校づくり推進審議会」を設置し、高砂市における学校の適正規模（1学校当たりの望ましい学級数）や通学条件などを勘案した適正配置、学校施設のあり方などについて総合的に検討し、「高砂市新たな学校づくり推進計画」を策定します。策定に当たっては、行政と学校・保護者・市民の方々とともに協働による取組を行っていきます。

## 2-3-2 教育 DX の推進に向けた学校環境の整備

➢ ***GIGA スクール構想の加速化に向けた ICT 環境の充実***

これまで先進的に整備を進めてきた高砂市における「1人1台端末」をはじめとした ICT 環境について、利活用が進むにつれて必要となる機器などの更新や新たな整備などを、学びを止めない観点から計画的に実施します。ICT を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を図り、学びの保障・充実を推進します。　⇒関連する取組1－1－1

➢ ***GIGA スクール構想を支える支援体制の強化***

「高砂市教育ネットワーク」による教職員向けの情報提供の積極的な発信や、ICT 支援員による先進事例の共有を行い、児童生徒の学びの充実や教職員の業務の効率化など、学校に好循環を生み出すための支援体制の強化に努めます。

## 2-3-3 学校施設等の整備と学校安全の推進

➢ ***安全・安心で快適な教育環境の整備***

「高砂市公共施設等総合管理計画」「高砂市公共施設保全計画」を踏まえ、また、第4期教育振興基本計画期間に検討を進める「高砂市新たな学校づくり推進計画」との整合性を図りながら、教室・体育館の空調設備設置など、計画的な教育環境の整備を政策部と連携して検討を進めます。また、学校プール施設については、天候や熱中症の影響を受けやすい授業実施状況や老朽化の現状などを踏まえ、水泳授業のあり方について検討していきます。

➢ ***安全・防災教育の推進と安全管理の充実***

「ひょうご安全の日」において実施している避難訓練や防災学習など、刻々と変化する自然状況や社会状況に的確に対応しながら、児童生徒の発達段階に応じた安全・防災教育を推進します。また、こどもたちが安心して学ぶことができるよう、「学校危機対応ハンドブック」や各学校が作成する「学校安全計画」などを活用し、学校における安全管理の取組を実施します。

※学校危機対応ハンドブック・・・学校管理下で事故等が発生した際、教職員が的確に判断し円滑に対応できるよう、様々なケースを想定し、それぞれの事案に対する対応について細かくまとめたマニュアル

## 2－3の達成度を測る指標（KPI）

| 指　標 | 現状<br>（令和6(2024)年度） | 目標<br>（令和 11(2029)年度） |
|---|---|---|
| 教室・体育館の空調設備設置状況<br>（普通教室は令和6年度現在100%） | （特別教室）40.0%<br>（体育館）0% | （特別教室）70.0%<br>（体育館）100% |
| 教員が児童生徒相互の意見交換のために効果的にICTを活用することができると回答した割合 | 53.0% | 70.0% |

## 基本的な方針　3－1 大人からの学びとこどもからの学びの循環

**POWER UP！**

**≪力を入れる POINT≫**

■地域と学校がパートナーとして連携・協働しながら、こどもたちの豊かな学びや成長を支えていく地域とともにある学校づくりを一層推進します。

■「ふるさと・高砂のこどもを地域で育てる」を大切にして、家庭・地域の教育力の向上を図り、大人とこどもの学びの輪づくり（ネットワークづくり）を充実させます。

■こどもたちがスポーツや文化活動に継続して親しむ機会を確保するために、地域との協働や地域の人材を活用した部活動の地域展開に向けて環境整備に取組みます。

### アンケートや計画策定検討委員会の声などからみた現状（◎：アンケート、◇：委員意見）

3-1-1　市内全小・中学校の学校運営協議会委員長による連絡会議

3-1-2

◎児童生徒の「どんな時が一番安心するか」では、「家族と過ごしているとき」の回答が一番多く、家庭が安心の場となっている。また、「悩みや不安なことがあるとき、だれに相談するか」では、小学校5年生は家族、学校の友だちの順に多く、中学校2年生は学校の友だち、家族の順に多くなっており、引き続き、家庭教育を大切にすることが重要である。

### ５年間の施策展開の中心となる方向性（主要な取組）

#### 3-1-1　地域とともにある学校づくりの充実

➢ ***効果的で持続可能な学校運営協議会のシステムの活性化***

学校・家庭・地域が目標やビジョンを共有しながら、こどもたちの豊かな学びや成長を支えていく学校運営協議会制度の活性化を図ります。学校運営協議会と青少年健全育成連絡協議会などとの連携を図り、地域とともにある学校づくりをさらに進めていきます。

➢ ***地域との協働による教育活動の一層の拡充***

地域と学校がパートナーとして連携・協働しながら、こどもたちの育ちを地域ぐるみで継続的に支えていく地域とともにある学校づくりを推進します。こどもたちが地域の大人の姿を見て成長する機会になり、また、地域の大人がこどもたちや学校にかかわることで「学びと活動の循環」のある魅力ある教育活動を拡充します。⇒関連する取組3－Ⅰ－2

※学校運営協議会制度・・・保護者や地域住民などから構成される学校運営協議会を設置し、学校運営の基本方針を承認したり、教育活動について意見を述べたりして、児童生徒の豊かな成長を支えていく仕組み。学校運営協議会を設置した学校をコミュニティ・スクールという

※青少年健全育成連絡協議会・・・次代を担う青少年の健全な育成を目指し、地域や学校によって構成される団体

## 3-1-2 家庭・地域の教育力の向上と活用

➢ ***家庭を応援する仕組みづくりの推進***

未来を担うこどもたちを育む家庭教育について、家庭学習の定着を図る「レッツスタディ@home」、基本的な食生活習慣の定着など食育の推進を図る「給食だより」などを通じて、保護者が安心して家庭教育を行えるよう、積極的に情報発信や啓発に取組みます。また、子育て家庭の多様化するニーズを踏まえ、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門家を配置し、保護者も児童生徒も安心して相談できるチームでの支援を充実させます。　⇒関連する取組1−2−3

➢ ***地域ぐるみで、ふるさと・高砂のこどもを育てる体制の強化***

学校運営協議会、連合PTA協議会、青少年健全育成連絡協議会、子ども会育成会連絡協議会などのこどもにかかわる教育関係団体及び地域の大人が連携を図り、「ふるさと・高砂のこどもを地域で育てる」を大切にして、大人とこどもの学びの輪づくり（ネットワークづくり）を充実させます。

⇒関連する取組3−1−1

※子ども会育成会連絡協議会・・・地域のこどもたちをみんなで育てていくという考えのもと、市内の子ども会によって構成される団体

## 3-1-3 地域人材と協働した部活動の地域展開の推進

➢ ***地域と連携した新しい部活動のあり方の構築***

教育的意義のある活動として学校単位で運営する従来の部活動については、時代の変化やライフスタイルの変化などに伴い、持続性の課題などが指摘されています。そこで、こどもたちにとって価値のある活動を持続するため、検討委員会を設置して、地域との協働や地域の人材を活用した、地域で展開する新たな活動のあり方の研究を進めます。

地域と連携した新しい活動に向けて段階的に地域展開していくことを基本として、地域団体や関係団体と連携・協力した実証研究を活用しながら、地域においてこどものニーズに応じたスポーツや文化活動を楽しく、安全・安心に実施できる環境を構築していきます。その中で、地域の大人とこどもがスポーツや文化活動を通じて学び合い、豊かな時間を過ごすことができる機会を創出していきます。

⇒関連する取組3−3−3

## 3－1の達成度を測る指標（KPI）

| 指　標 | 現状<br>（令和6（2024）年度） | | 目標<br>（令和 11（2029）年度） |
|---|---|---|---|
| 地域や社会をよくするために何かをしてみたいと思う児童生徒の割合 | （小6）87.4%<br>（中3）79.4% | ⇒ | （小6）90.0%<br>（中3）82.0% |
| 地域展開したクラブ活動に参加している生徒の割合（実証研究を含む） | 10.1% | ⇒ | 80.0% |

## 基本的な方針　3－2 地域をベースとした学びの充実

**POWER UP！**

**≪力を入れる POINT≫**

■高砂市の強みである「ものづくり産業」や「歴史・文化・自然」を教育に生かして、地域の企業や地域の人材との協働により、ふるさと・高砂を愛する心を育てるとともに、「伝える大人」と「知るこども」の学びの循環を目指します。

■充実した大人同士の学びやこども同士の学び、大人とこどもの学び合いの場となるよう、学校施設の地域開放のあり方を検討していきます。

### アンケートや計画策定検討委員会の声などからみた現状（◎：アンケート、◇：委員意見）

3-2-1

◎令和3年度の市民調査では、「高砂市で自慢したい文化、人、もの」の上位は①石の宝殿（生石神社）②秋祭り③高御位山④万灯祭の順であり、「文化による産業振興や地域の活性化」「文化を担う人材の育成や活用」が大切であると回答した。

（「第2次高砂市文化振興基本方針」より）

【阿弥陀こども園】
地域の燻製品製造業者による燻製品の加工を見守る園児の様子

【阿弥陀小学校】
阿弥陀音頭体験の様子（第3学年）

### 3-2-2 放課後こども教室事業の実施回数

| 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度（前期） |
|---|---|---|---|
| 214回 | 170回 | 180回 | 91回 |

## ５年間の施策展開の中心となる方向性（主要な取組）

### 3-2-1 地域の産業・文化等を大切にした学びの展開

➢ ***地域の企業との協働による学びの機会の充実***

高砂市の強みである「ものづくり産業」を教育に生かして、地域の企業と協働し、実社会のホンモノに触れながら学ぶ機会を展開し、児童生徒が様々な社会や大人と触れ合い、ふるさと・高砂を愛し、実社会で豊かに生きる力を育成します。また、企業にとっても児童生徒への教えの場であると同時に、児童生徒からの学びの場ともなることを目指し、「高砂 STEAM 教育ライブラリー」の充実を図ります。

⇒関連する取組Ⅰ－Ⅰ－2

➢ ***ふるさと・高砂の文化等に触れ合う体験や学びの機会の充実***

高砂市の豊かな地域資源である歴史や文化、自然を教育に生かし、伝統文化や地域の伝統芸能などを通じて地域のつながりを再発見し、様々な文化を大切にする心を育みます。健康こども部と連携し、園児・児童生徒の発達段階に応じたふるさと高砂学を充実させ、文化の継承を通じて、「伝える大人」と「知るこども」の学びの循環を目指します。　⇒関連する取組3－3－2

※高砂STEAM教育・・・産学官民（学校・企業・地域等）が連携し、実社会のホンモノに触れる機会を通して学びを深める探究的な学びのプログラム

※ふるさと高砂学…高砂市の郷土の歴史や文化を学ぶことで知識を深め、ふるさと高砂を愛し、誇りに思う心の醸成を目的にした講座

### 3-2-2 居場所づくりに向けた地域開放のあり方の検討

➢ ***多世代の居場所としての放課後等の適切な地域開放のあり方の検討***

学校施設は、こどもたちの居場所であるとともに、「地域のみんなの施設」であり、大人がつながり支え合う大切な学習の場でもあります。小学生を対象とした「放課後子ども教室」の実施による居場所づくりの展開や、生涯を通じたスポーツ活動や文化活動の機会を提供するための学校施設開放事業に引き続き取組みます。また、利用ニーズ、施設を取り巻く環境などの変化も踏まえ、多世代が安心して、また快適に学びを深め合う地域開放のあり方を検討していきます。

➢ ***よりよい利用システムの研究***

より安心して学校施設を利用できるよう、また、より多くの学びが広がるよう、ICT の活用やセキュリティに配慮したゾーニングも含め、よりよい利用システムのあり方を研究します。

## ３－２の達成度を測る指標（KPI）

| 指　標 | 現状<br>（令和6（2024）年度） | | 目標<br>（令和 11（2029）年度） |
|---|---|---|---|
| 放課後や週末に地域の活動（行事等）に参加している児童生徒の割合 | （小6）3.6%<br>（中3）2.3% | ➡ | （小6）4.4%<br>（中3）3.9% |
| 放課後子ども教室事業の児童参加人数 | 2,665人※ | ➡ | 2,700人 |

※令和5年度参加人数実績

## 基本的な方針　3－3　人生を豊かにする生涯学習の推進

**POWER UP！**

**≪力を入れる POINT≫**

■学びたいときに学ぶことができる学習環境の充実を図り、こどもからの学びと大人からの学びがつながる学びの輪づくり（ネットワークづくり）を推進します。
■豊かなふるさと・高砂の文化財を未来に向けて確実に守り、大人とこどもが、ともに文化財の継承の担い手となり支える取組を拡充します。
■「だれでも」「いつでも」「いつまでも」スポーツを「する」ことができ、「観る」「支える（育てる）」など、様々な形でスポーツとつながる生涯スポーツを推進します。

### アンケートや計画策定検討委員会の声などからみた現状（◎：アンケート、◇：委員意見）

3-3-1

◇こどもを育てる教育も大切であるが、大人の学びである生涯学習も、より重視する必要がある。生涯学習では、大人もこどもも一緒に成長する、学びが循環するという考え方を大切にしていきたい。

**高齢者大学講座実施回数**

| 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 |
|---|---|---|---|---|
| 101回 | 77回 | 108回 | 116回 | 130 回 |

3-3-2

「高齢者大学」での受講者の様子

「高砂夏休み子ども教室」
（社会教育）の工場見学の様子

小学生の旧入江家住宅見学の様子

### ５年間の施策展開の中心となる方向性（主要な取組）

#### 3-3-1　幅広い世代にあった生涯学習の機会の充実

➢ ***幅広い世代の地域での学びの拡充***

各地域でのスポーツ・文化芸術活動などの「生涯学習登録グループ」による学びや、こどもを対象とした社会教育講座「高砂夏休み・冬休み子ども教室」などの多様な世代のつながりやかかわりが創出できる学びの機会や場の充実を図ります。

甲南女子大学との連携を図り、ふるさと・高砂をフィールドとして、地域の取組の活性化や地域でのつながりのある学びの拡充、学びを広げる人材の育成など特色ある取組を展開します。

➢ ***大人もこどもも安心して学べる図書館や教育センターの充実***

図書館では、情報・学習センターとしての機能充実を目指し、レファレンスサービスやホームページでの地域資料の公開（「デジタル郷土たかさご」）の充実を図り、学びたいときに学べる図書館としていきます。また、「HOME TOWN ゼミ」や親子を対象としたイベントなど特色ある講座を展開します。「高砂市子ども読書活動推進計画」に基づき、読み聞かせや本の紹介活動など読書活動の取組の充実を図ります。

教育センターでは、自分の願う未来のための学び直しの機会や、生涯にわたって学び続ける「人生を豊かにする学び」を大切にし、魅力ある生涯学習講座の充実を図ります。高齢者大学では、カリキュラムの工夫や学習成果を生かす工夫による学びの循環を目指すとともに、より受講しやすい仕組みも検討していきます。

※レファレンスサービス・・・調べ方の案内や文献の提供など、必要な資料・情報を見つけることを支援するサービス
※HOME TOWN ゼミ・・・「高砂市史」をテーマに自主学習を行い、その成果を市民に向けて発表する講座

## 3-3-2 文化財に学ぶ機会の充実と文化財の保存・活用

➢ ***文化財を活用した「ふるさと・高砂」の学習の充実***

小・中学校での「ふるさと高砂学」、謡曲「高砂」の体験授業、「親子歴史体験教室」「移動歴史教室」などのこどもの学びを充実させるとともに、「遺跡をめぐろう ぐるりんマップ」をはじめとする親しみやすい資料を活用した市民向け講座などを展開し、大人とこどもが、ともにふるさと高砂を愛し、ともに文化財の継承の担い手となることを目指します。　　⇒関連する取組3−2−1

➢ ***文化財を保存・活用する取組の推進***

山と海と川に囲まれた豊かな環境により育まれてきた文化財を着実に未来に継承するため、計画的に保存・管理を進めるとともに、適切な維持・修理・整備を行います。令和6（2024）年度に策定した「高砂市文化財保存活用地域計画」に基づき、文化財を確実に守り、保存・活用する取組を推進します。

## 3-3-3 生涯を通じたスポーツの振興

➢ ***ライフステージに応じたスポーツ活動の推進***

「高砂市スポーツ推進計画」に基づき、だれでも・いつでも・いつまでもスポーツに親しみ、楽しめる環境づくりに取組みます。また、地域との協働や地域の人材を活用した持続可能な新しい部活動のあり方の検討も踏まえ、より多様なニーズに対応できるよう、地域をフィールドとしたスポーツ活動のあり方について検討するとともに、市スポーツ協会などとの連携・協力を推進します。 ⇒関連する取組3−1−3

➢ ***ともに触れ合いながら楽しむ生涯スポーツの推進***

人生100年時代において、だれもが気軽に参加できるユニバーサルスポーツを推進します。スポーツを「する」人に加えて、「観る」、「支える（育てる）」など、大人もこどもも、ともに様々な形でスポーツとつながり、触れ合いながら楽しむ生涯スポーツを推進します。

※ユニバーサルスポーツ・・・年齢や国籍、障がいの有無にかかわらず、だれもが一緒に楽しめるスポーツのこと

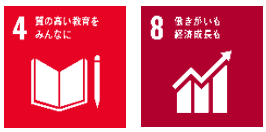
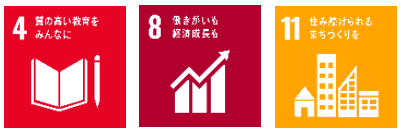
## ３－３の達成度を測る指標（KPI）

| 指　標 | 現状<br>（令和6(2024)年度） | | 目標<br>（令和 11(2029)年度） |
|---|---|---|---|
| 文化財イベント・施設見学者数 | 4,103人※ | ⇒ | 4,300人 |
| 市内スポーツ施設の延べ利用者数 | 358,320人※ | ⇒ | 362,000人 |

※令和5年度実績

## 2　本計画と持続可能な開発目標(SDGs)

本計画で定める施策推進における9の基本的な方針が目指す主に関連するSDGs17 の目標（ゴール）は次のとおりです。

| 基本目標 | 9の基本的な方針 | | 関連する SDGs17 の目標(ゴール) |
|---|---|---|---|
| 1 一人ひとりが主体的に学び、未来を切り拓く力を育む学校教育の推進 | 1−1 | 確かな学力の育成 | |
| | 1−2 | 豊かな心と健やかな体の育成 | |
| | 1−3 | 学びと育ちの連続性を踏まえた教育の推進 | |
| 2 多様性を包み込み、だれもが安全・安心と幸せを感じる教育環境の創造 | 2−1 | 一人ひとりに応じたきめ細かな教育の推進 | |
| | 2−2 | 教職員がこどもと向き合うための環境の充実 |  |
| | 2−3 | 未来を見据えた学びの場としての環境の充実 | |
| 3 生涯にわたって学び、学びをとおしてつながる生涯学習の充実 | 3−1 | 大人からの学びとこどもからの学びの循環 | |
| | 3−2 | 地域をベースとした学びの充実 | |
| | 3−3 | 人生を豊かにする生涯学習の推進 |  |

# 第5章 計画の着実な推進

## 1　推進体制

本計画の推進に当たっては、教育委員会だけでなく、庁内関係部署と連携・協力していきます。「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に定める総合教育会議において、市長と教育委員会とが教育課題や取組などについて協議して教育施策に反映するとともに、関係部署と連携・協力を行いながら、取組を着実に推進していきます。

また、こどもの育ちは、学校・園のみならず、家庭、地域の総合力を発揮することが重要であり、地域団体、企業や大学等との連携・協力についても、一層の拡充を図っていきます。多くの関係者との連携、協力の下、こども・大人の学びを支える仕組みづくりを進めていきます。

## 2　計画の進行管理

本計画の施策の実施に当たっては、PDCA サイクルを基本とした進捗状況の進行管理、取組内容の検証・評価、課題や成果などを踏まえた改善を行い、効果的な教育行政の一層の推進を図ります。取組の検証・評価については、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条に基づき、「点検・評価シート」を活用して取組の実績や効果などについて自己評価を行うとともに、外部有識者による第三者評価を実施します。その結果を市議会へ報告するとともに、市ホームページで広く市民に公表します。

## 3　達成度を測る指標(KPI)

基本的な方針ごとの達成状況を確認・検証するため、それぞれ２指標を設定し、計画全体で 18 項目を設定しています。指標は、市民への分かりやすさ、取組における代表的な要素などを踏まえながら、全国学力・学習状況調査質問調査項目などを活用して選定しています。

# 点 検 ・ 評 価 シ ー ト

**【事業の基本情報（第4期高砂市教育振興基本計画での位置づけと関連根拠法令等）】**

| | |
|---|---|
| 基本目標 | 1　一人ひとりが主体的に学び、未来を切り拓く力を育む学校教育の推進 |
| 基本的な方針 | 1－1　確かな学力の育成 |
| 関連根拠法令等 | |

**【事業に関する指標】**

| 指標項目 | 単位 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 | 令和10年度 | 目 標 値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

**【点検】**

| 取組項目 | 取組状況≪何をしたか？≫ | 成果≪どうなったか？≫ | 課題≪改善が必要なこと≫ |
|---|---|---|---|
| 1-1-1<br>個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 | | | |
| 1-1-2<br>体験活動を大切にした探究的な学びの推進 | | | |
| 1-1-3<br>基礎･基本の定着と粘り強く取組む力の育成 | | | |

**【評価】**

| 取組項目 | 評価 | 評価の理由 |
|---|---|---|
| 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 | | |
| 体験活動を大切にした探究的な学びの推進 | | |
| 基礎・基本の定着と粘り強く取組む力の育成 | | |

| 評価基準 | |
|---|---|
| 計画を大幅に上回る成果が得られた | S |
| 計画どおりに成果が得られた | A |
| 計画より少し遅れている | B |
| 計画どおりに進まず成果が得られなかった | C |

| 方向性 | 次年度の方向性 |
|---|---|
| | |

| 方向性 | |
|---|---|
| 拡充･推進 | 1 |
| 維持･継続 | 2 |
| 見直し･改善 | 3 |
| 廃止 | 4 |

**【特記事項】**（前年度点検･評価実施時の指摘事項など）

| |
|---|
| |

# 資料編

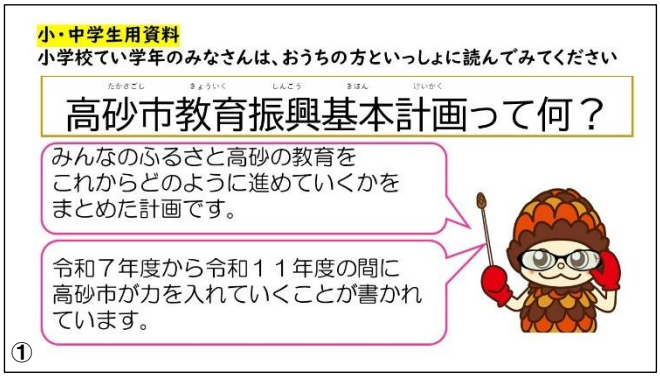
## 1 高砂市教育振興基本計画策定経過

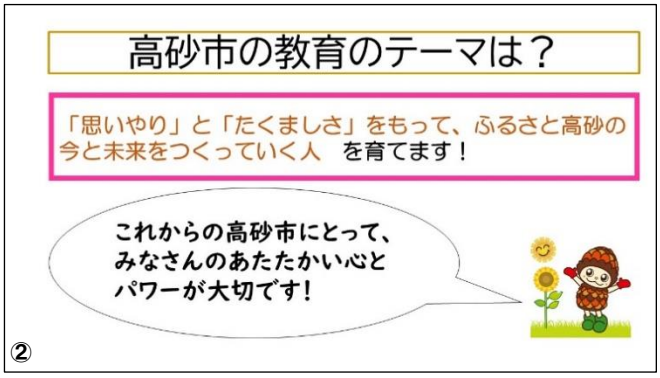
| 日程 | 会議等 | 検討内容等 |
|---|---|---|
| 令和6年<br>7 月8日～<br>7月19日 | 教育振興基本計画に係る<br>アンケート調査の実施 | 調査対象<br>・全小学校第5学年児童<br>・全中学校第2学年生徒<br>・全小学校第5学年児童保護者及び全中学校第2学年生徒保護者<br>・全小・中学校教職員<br>・就学前児童（5歳児）保護者（公立こども園代表園・私立こども園代表園）<br>・学校運営協議会委員 |
| 8月21日 | 第1回教育振興基本計画<br>策定検討委員会 | ・第3期の主な取組と成果、今後の方向性について<br>・アンケート調査結果について<br>・第4期の骨子案について |
| 8月22日 | 教育委員会定例会<br>第2回総合教育会議 | ・高砂市教育大綱について<br>・高砂市教育振興基本計画について |
| 11月12日 | 第2回教育振興基本計画<br>策定検討委員会 | ・高砂市教育振興基本計画（素案）について<br>・パブリックコメント（意見募集）について |
| 11 月 27 日<br>～<br>12 月 27 日 | パブリックコメント | 【一般】と【小・中学生】対象に実施 |
| 11月 28 日 | 教育委員会定例会 | ・高砂市教育振興基本計画（素案）について<br>・パブリックコメント（意見募集）状況について |
| 11月28日 | 第3回総合教育会議 | ・高砂市教育大綱について<br>・高砂市教育振興基本計画について |
| 令和7年<br>1月21日 | 第3回教育振興基本計画<br>策定検討委員会 | ・パブリックコメントの実施結果について<br>・高砂市教育振興基本計画（最終案）について<br>・計画ダイジェスト版について |
| 1月23日 | 教育委員会定例会<br>第4回総合教育会議 | ・高砂市教育大綱について<br>・パブリックコメントの実施結果について<br>・高砂市教育振興基本計画（最終案）について |
| 2月6日 | 教育委員会臨時会 | ・第4期高砂市教育振興基本計画の決定<br>市ホームページにて公表 |

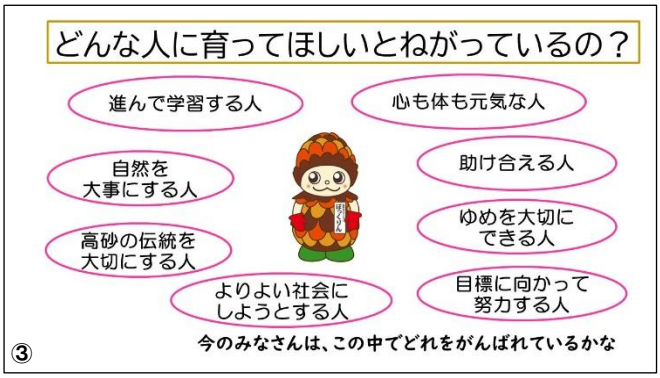
## 2　パブリックコメントの実施

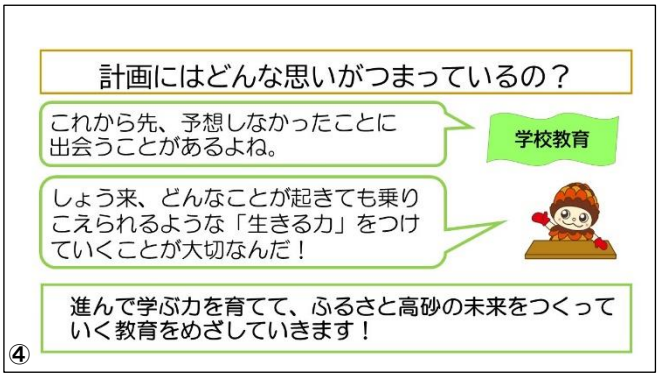
（1）　実施期間　　令和6（2024）年11月27日（水）から 6（2024）年12月27日（金）まで
（2）　閲覧内容　　①計画（素案）　②小・中学生用資料
（3）　閲覧場所　　教育総務課、情報公開コーナー、市民サービスコーナー、各地域交流センター
（4）　広報　　市広報12月号、市ホームページ
（5）　提出区分　　「一般用」「小・中学生用」（小・中学生用は、学校への提出も可）
（6）　意見提出件数・人数　　一般用：24件（7人）、小・中学生用：60人
（7）　パブリックコメントの結果公表　　令和7（2025）年1月

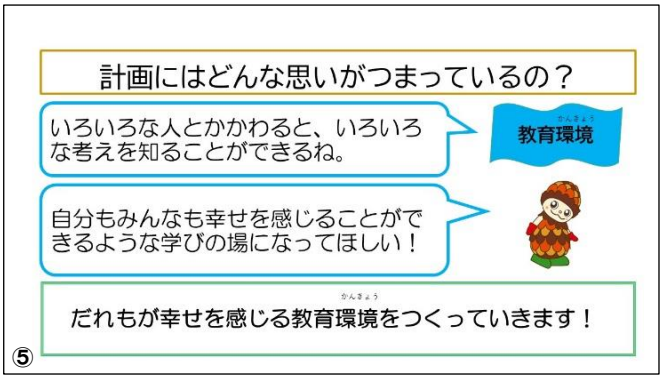
### パブリックコメント「小・中学生用資料」

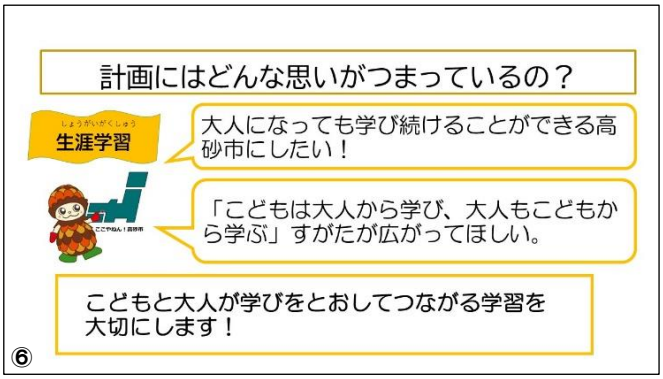


## 一般用パブリックコメント結果

「計画全体に関連する事項」３件、「基本目標１に関すること」４件、「基本目標２に関すること」２件、「基本目標３に関すること」14 件、「その他」１件いただきました。いただいたご意見とご意見に対する高砂市教育委員会の考え方をまとめた詳細は、市ホームページに掲載しています。

## 小・中学生へのアンケート（パブリックコメント）結果概要

### １ 意見提出件数

| 学年 | 小学校<br>1～3年生 | 小学校<br>4～6年生 | 中学生 | 児童会･生徒会等 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 人数 | 1 | 21 | 37 | 1<br>（小学校計画委員会） | 60 |

## 2 アンケート(1)の結果

①～⑨のうち、パワーアップしてほしいと思ったことを3つまで選択

① 【確かな学力】よくわかる楽しい学習が行われること。
② 【豊かな心や元気な体】いのちを大切にして、いじめで苦しい思いをする人がいないように、一人ひとりを大切にする学校にすること。
楽しく運動ができる学習やおいしく楽しい給食の時間があること。
③ 【小・中一貫教育】こども園・小学校・中学校のつながりが強くなること。

④ 【特別支援教育・不登校支援】だれもが、一人ひとりにあった学習が前向きにできること。
学校や教室に行くことがむずかしくなっても、自分らしく学ぶことができること。
⑤ 【先生の働き方改革】先生と話ができたり相談したりする時間がたくさんあること。
⑥ 【ICT 教育・施設の安全・安心と快適】タブレットでの学習がしやすく、楽しく学習できること。
安全で安心ですごしやすいしせつになること。

⑦ 【地域の大人との協働】地域の方と学校がいっしょに、学校をもっとよくすること。
⑧ 【地域学習】高砂市ならではの、産業や歴史や文化の学習で高砂市のよさを発見すること。
⑨ 【生涯学習】大人になっても学び続けることができる高砂市であること。

【小・中学生がパワーアップしてほしいと3つまで選んだ項目】

| 項　目 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 小学生 | 13 | 18 | 6 | 10 | 2 | 8 | 2 | 6 | 4 |
| 中学生 | 24 | 21 | 8 | 9 | 9 | 16 | 3 | 9 | 6 |
| 合　計 | 37 | 39 | 14 | 19 | 11 | 24 | 5 | 15 | 10 |

## 3 アンケート(2)の結果(抜粋)

【基本目標全体に関する意見(抜粋)】

| | 小・中学生からの意見の概要 |
|---|---|
| 小 | 人と人が助け合っていく高砂市がいいと思いました。理由は学校や生活のことでも一人ひとりが助け合うと、よりよい高砂市になれると思ったからです。自分のことも大切に、人のことも大切にできる大人になって、高砂市の魅力を伝えたいです。人のことを大切に思う学習のある学校になったらいいと思いました。困っている人を助けたり、人の心配をしたりできるようになりたいからです。勉強もスポーツも楽しめる学校もいいと思いました。不登校になっている人も来ることができるようになると思うからです。人と人が助け合う平和な高砂市がいいと思いました。 |
| 小 | 高砂市をよりよくしようとしているなと思いました。高砂市の一人ひとりを大切にしようとしているのが伝わってきました。学校教育、教育環境、生涯学習の3つを5年間で全部良くすることなんて、できるんかなあ、というのも思いました。 |
| 中 | 高砂市は教育振興基本計画ということをやっていることが分かりました。そのほかにもありますが、高砂市の教育テーマを見て、高砂の歴史を受けついでいくことに気がつきました。資料を見て、いろいろな意見がありますが、さまざまな人の意見があって、目標に向けて話合いをしっかりとしていることを感じることができました。 |
| 中 | アンケート(1)の①～⑨のことができるようになれば、学校に行きやすくなると思いました。 |

| | |
|---|---|
| 中 | 私は高砂市教育振興基本計画というものを初めて知りました。この計画があることを知ってから、普段の学校生活を振り返ってみると、この授業のやり方はこの目標のためだったのかと感じることがありました。みんなが楽しんで行ける学校になればいいなと思いました。 |

【基本目標１に関する意見（抜粋）】

| | 小・中学生からの意見の概要 | 項目 |
|---|---|---|
| 小 | 学習する時に出たこどもの考えについて、皆で考えたり意見を出し合ったりすることが、今より多くなってほしいと感じた。 | 1-1 |
| 小 | いろいろな人が自分に合った学習を楽しく勉強できるのはいいと思う。 | |
| 小 | もう少し体験授業を増やしてほしい。 | |
| 小 | 最近コロナなどでたくさんの行事がなくなってしまったので、秋祭り、運動会などのことをできるだけ積極的にやっていきたいです。 | |
| 中 | みんなで考えたり話し合ったりする機会、一人ひとりに合わせて学習する機会、どちらも大切にできる学校がいいと思う。 | |
| 中 | 勉強＝しんどいという考えがあるので、理解しやすく楽しく学ぶことができれば、学校に行きたくないという思いが減るのではないかと思う。 | |
| 中 | 僕は、全員が積極的に意見を言ったり、発表したりできる学校になったらいいなと思います。先生があてると自分の意見が言えるのに、自分から手を挙げる人はほとんどいないからです。間違うのが恥ずかしいなどの気持ちを取り除いていってほしいです。 | |
| 小 | 命を大切にして、いじめで苦しい思いをする人がいなくなるように呼びかけをし、高砂市がもっと良くなることを願います。 | 1-2 |
| 小 | みんなが仲良くここちよい学校にしたい。楽しく、行きたくなるような学校にしたい。 | |
| 小 | 男女差別がなくなる学校がいいと思う。 | |
| 中 | いじめは不登校になってしまう原因の一つなので、アンケート（1）の②を実現することができれば、全員が平等に生活できるのではないかと思う。そのために加害者になってしまった子も、被害者の子にも、周りの大人が寄りそってあげることが大切なのではないかと思う。 | |
| 小 | 中学校、こども園との交流も増えるといいと思う。 | 1-3 |

【基本目標２に関する意見（抜粋）】

| | 小・中学生からの意見の概要 | 項目 |
|---|---|---|
| 小 | だれもが幸せを感じる教育環境を作ることは、とても良いことだと感じました。 | 2全体 |
| 中 | 全員が平等に教育を受けられることが大切だと思う。 | 2-1 |
| 中 | 学校や不登校支援教室の先生方がしっかり相談に乗ってくれるのがありがたく感じています。 | |
| 中 | 生徒の気持ちに共感しつつ、良い方向にサポートしてくれる学校になったらいいな。（のびのびは理想の場所です。学校に行けていない子は一度でも行ってみてほしい。） | |
| 小 | 学校全体の先生と交流する時間を設けられれば、困った時にすぐ相談できる。 | 2-2 |
| 小 | 先生に相談できたり、話ができたりすると不満なことがあっても気持ちが楽になったりすると思います。一人ひとりを大切にする学校にするのはとても大切だと思います。 | |
| 小 | 一人ひとりに合った勉強の教え方をしてほしい。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 中 | 相談など先生に話すことができる時間があまりないと感じていたから、アンケート（1）の⑤の政策に力を入れて取り組んでほしいです。私は先生が忙しそうで相談しづらいなと思ったことがあるので、先生と話す時間をつくることができたら、どんどん先生方と関わりやすくなるだろうと思いました。でも、この時間ができることで、先生方の仕事量が増えてしまうかもしれないというのが心配だと思いました。 | 2-2 |
| 中 | 生徒の行動や会話を先生はしっかりみてほしい。 | |
| 中 | タブレットの不具合がないようにしてほしい。タブレットで授業を行うと、効率的になったり、楽しくなったりするので、タブレットを活用してほしい。 | 2-3 |
| 中 | 特別教室、体育館にエアコンをつけてほしい。 | |
| 中 | 1クラスの人数がもっと少なかったらいいなと思った。少ない方がより授業を静かに受けられて集中できそう。 | |

【基本目標３に関する意見（抜粋）】

| | 小・中学生からの意見の概要 | 項目 |
|---|---|---|
| 小 | 高砂市の地域の方々ともっと交流のできる学校になったらいいと思う。 | 3-1 |
| 小 | 地域の方など、いろいろな方といっしょに学習したい。 | |
| 小 | 地域の人もようち園や中学校の人とも交流した方がいいと思う。 | |
| 小 | もっと高砂市の文化や歴史を学べる施設をつくってくれたらいいなと思った。 | 3-3 |
| 中 | 大人になったら、なにかを学ぼうとはあまりしないと思うから、アンケート（1）の⑨の政策では何を行うのか気になります。 | |
| 中 | 高砂市には、古くからある多くの歴史があるので、それをまず地域の方に分かって頂き、観光地としてもいいと思いました。そのためには、高砂市の環境や空気をきれいにしていかないといけないと思いました。 | |

小・中学生からの意見の記載を尊重していますが、意見の内容が変わらない形で一部調整しています。また、本抜粋では、類似した意見については、まとめて記載をしています。

いただいたご意見とご意見に対する高砂市教育委員会の考え方をまとめた詳細は、市ホームページに掲載しています。

## ３ 高砂市教育振興基本計画策定検討委員会委員名簿

| 氏名 | 区分 | 所属等 |
|---|---|---|
| ◎押田　貴久 | 学識経験者 | 兵庫教育大学大学院学校教育研究科准教授 |
| 藤原　寛文 | 中学校代表校長 | 鹿島中学校長 |
| ○赤松　祐人 | 小学校代表校長 | 阿弥陀小学校長 |
| 福井　姿寿子 | 幼稚園・こども園代表園長 | 阿弥陀こども園長 |
| 覺野　成広 | 高砂商工会議所 | 高砂商工会議所常議員 |
| 松本　克英 | 高砂市連合自治会 | 高砂市連合自治会長 |
| 森口　輝一 | 高砂市連合ＰＴＡ協議会 | 高砂市連合ＰＴＡ協議会副会長<br>中学校部会部長 |
| 今村　康彦 | 高砂市連合ＰＴＡ協議会 | 高砂市連合ＰＴＡ協議会副会長<br>小学校部会部長 |
| 里村　恵理子 | 高砂市連合ＰＴＡ協議会 | 高砂市連合ＰＴＡ協議会副会長<br>幼稚園・こども園部会部長 |
| 片岡　さわ子 | 高砂市青少年健全育成連絡協議会 | 高砂市青少年健全育成連絡協議会理事 |
| 河井　建吾 | 学校運営協議会 | 鹿島中学校学校運営協議会委員長 |
| 西本　アタル | 市民公募 | 市民 |

◎は委員長、○は副委員長

（各委員の所属・職名は第3回検討委員会当時、敬称略、検討委員会設置要綱記載順）

第1回検討委員会の様子

## ４ アンケート調査結果概要（令和6（2024）年7月実施）

### 【1】 児童（小学校第5学年） 生徒（中学校第2学年）対象

⑴ 学校生活について

◇学校生活が「楽しい」「どちらかといえば楽しい」と回答した割合は、小・中学生ともに90%となった。「一番楽しいと感じるとき」については、小・中学生ともに一番多かった回答は「休み時間」で約 40%、「授業」と回答したのは約5%であった。「休み時間」の次に多かった回答は、小学生が「クラブ活動」で16%、中学生は「部活動」で24%であった。

◇好きな授業は小学生で図画工作、体育など、中学生で保健体育、特別活動などが多くなっている。

◇「授業が楽しいと感じるとき」は、小・中学生ともに「話し合い」、「分かった時」、「作業をしているとき」の順で回答が多かった。

◇学校生活の中で不安を感じるのは、小・中学生ともに、「勉強」、「友だち」、「クラス」の順で回答が多かった。

⑵ 自分自身について

◇「自分には良いところがある」と回答したのは、小学生は85%、中学生は72%であった。

◇「社会をよくするために何かしてみたい」と回答したのは、小学生は87%、中学生は73%となっている。

⑶ 日常生活について

◇約40%以上の小・中学生が読書をほとんどしていない一方で、外遊びや運動はどちらも約80%以上が日常的に行っている。

◇地域行事に参加している小学生は 72%、中学生は60%となっている。

◇安心できる時間について、小学生では「家族と過ごしているとき」という回答が最も多いのに対し、中学生は「友だちと遊んでいるとき」が最も多い。

◇学校以外の時間に2時間以上 SNS や動画を視聴している小学生は約40%、中学生は約50%となっている。

### 【2】 小・中学生保護者（小学校第5学年・中学校第2学年）対象

⑴ 学校生活について

◇学校に期待することは、小・中学生の保護者ともに、「思いやりの育成」、「学力向上」、「自主性の伸長」、「人間関係の構築」、「学習意欲の向上」が上位5項目として回答が多かった。

◇学校生活での不安については、小学生の保護者は「友だち関係」という回答が最も多く、中学生の保護者は「学力面」という回答が最も多かった。

⑵ 家庭生活について

◇学校以外の学習時間は、小・中学生の保護者ともに「1時間以上」と回答したのは約30%となった。

◇「平日のスマートフォンやタブレット使用時間は、1時間以上である」と回答したのは、小学生保護者で55%、中学生保護者で82%となった。

⑶ 保護者自身について

◇「学習活動に参加していない」と回答した小・中学生保護者は約70%で、理由としては、「時間・経済的な余裕がない」が多かった。

◇「地域行事に参加している」と回答したのは、小学生保護者は約 70%、中学生保護者は約 60%である。

## 【3】 教職員対象

⑴ 学校教育について

◇自校の取組が学力向上に「つながっている」「どちらかといえばつながっている」と回答した教職員が 94%であり、授業の質に自信をもっている教職員が多いことがうかがえる。

◇「児童生徒が学校に通うことを楽しいと感じている」また「保護者との関係性はできている」と回答した教職員はともに95%であり、高い評価となっている。

⑵ 勤務環境について

◇ストレスに感じることは、「業務の忙しさ」80%、「給与関係」43%、「職場の人間関係」30%、「保護者との関係」17%との回答になった。

◇特に忙しさを感じる業務は、「支援が必要な児童生徒・家庭への対応」が最も多く、次に「学級事務等以外のその他の事務業務」となった。

◇「業務改善が必要」と回答した教職員は、87%であり、内訳として、「教育環境の整備(空調設備等)」と「業務分担」が約60%で多い。

⑶ ICT の活用について

◇授業の効率化に効果を感じる教職員は 72%であり、必要な支援は「教員向けの ICT 研修」や「支援員等の人員配置」となっている。

⑷ 自由記載の意見

◇理科室、図工室などの特別教室の空調設備について切実な声があった。

◇SA、介助員等の人的支援の増員、ICT 指導員の配置や、タブレット端末やインターネット環境の充実を求める意見もあがっている。

## 【4】 就学前児童(5歳児)保護者対象

(1) こどもについて

◇学校に期待することは、「自主性の伸長」、「思いやりの育成」、「学力向上」、「人間関係の構築」、「学習意欲の向上」の順で回答が多かった。

◇小学校就学に当たっての心配は、「友だち関係(いじめ等)に関すること」が約 80%と高く、次に、「学力面」、「人間関係」と回答している。

◇週に1回以上、こどもが絵本を読んだり、読み聞かせをしたりする割合が90%と高く、読書が習慣となっている。

（2）ICT の利用状況について

◇約70%のこどもが日常的にスマートフォンやタブレット端末などを使用する一方で、視力の低下や依存症を心配する就学前児童保護者が多い。

（3）保護者自身について

◇67%の就学前児童保護者は地域の行事やイベントに参加している。

◇学習活動への参加について、80%が「参加していない」と回答した。

◇学習するには、「時間の確保と経済的な余裕が必要である」と多くの就学前児童保護者が回答しており、学習に参加する際の「託児サービスが必要である」との回答は55%となった。

## 【5】学校運営協議会委員対象

（1）運営について

◇学校、家庭、地域の連携について、「効果的に行われている」との回答が73%となっており、地域の文化や自然、施設などを生かした取組などが効果的に進められていると考えている。また、地域と学校の連携促進にあたり、地域を巻き込んだ取組の実施が必要だとする意見が多く、地域行事への協力体制が整っていると考えている割合も81%となった。

◇学校運営に関する情報発信があまり行われていないと感じる委員が40%となった。

◇学校運営協議会に求められる役割として、学校、地域の人材をつなぐことや学校の学習活動の支援をすることが大切であると考えられている。

（2）学校について

◇学校に期待することは「自主性の伸長」、「思いやりの育成」、「人間関係の構築」の順で多くなっている。

◇市内の小・中学生の優れている部分として、「あいさつ」や「思いやりの心」をあげている委員が多く、心を育てる教育が積み重ねられている。

◇身に付けるべき力としては、「自信をもって取り組む力」や「目標をもって取り組む力」などが上位にあげられており、小・中学生の主体性や自己肯定感を高める教育が必要だと考えている。

（3）自由記載意見

◇このアンケートは抽象的で答えにくく、計画策定にどう役立てるのか疑問である。

◇学校運営協議会の意義が浸透していない。学校運営協議会とはなにか、委員の役割、設立の意義などを知らせ、情報発信の充実を図る必要がある。

# 第４期高砂市教育振興基本計画

令和７（2025）年２月

発　　行　高砂市教育委員会
編　　集　高砂市教育委員会事務局教育部教育推進室教育総務課
〒676-8501　兵庫県高砂市荒井町千鳥１丁目１番１号
電　　話　079-443-9052
E-mail　tact7410@city.takasago.lg.jp